神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

防災・災害ケア基礎講座
（公開講座）
報告書

2021 年 10 月

主催
工学教育研究推進機構
地域連携災害ケア研究センター

共催
厚木市大学連携・協働協議会

協力
厚木市

目次

Ⅰ　はじめに

１　基礎講座の報告書発刊にあたって　・・・・・・・・・・・・・・　１
２　ポスター　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
３　プログラム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

Ⅱ　基調講義

人権を保障するインクルーシブな避難所とは
障害者を受け入れた熊本学園大学の災害時避難所運営の経験
熊本学園大学社会福祉学部　花田昌宣　教授　・・・・・・・・・　５

Ⅲ　講義

１　厚木市のハザードマップの理解と防災の取組
厚木市危機管理課　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　31
２　神奈川工科大学の防災・災害対応の取組
神奈川工科大学管財課　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　49
３　長期避難生活における「生活不活発病」を防ぐには？
神奈川工科大学基礎教養・教育センター　高嶋渉　准教授　・・　57
４　災害時における情報収集のポイント
神奈川工科大学情報ネットワーク・コミュニケーション学科
塩川茂樹　教授　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　65

Ⅳ　参加者　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　77

Ⅴ　アンケート内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　78

Ⅰ－1　基礎講座の報告書発刊にあたって

神奈川工科大学地域連携災害ケア研究センター長
臨床工学科　特任教授　　山家　敏彦

神奈川工科大学の建学の精神の柱として「地域貢献」が挙げられています。地域と連携しながら、取り組むべきこととして「防災」、「災害ケア」は、日本における最優先課題と言えます。これは、国の施策をみても、また、都道府県レベル、区市町村レベルの施策をみても明らかである。当大学では、2019 年に地域連携災害ケア研究センターを設置しましたが、それぞれの研究分野を通じて災害ケアに関する研究を行うとともに、もうひとつ重要なことは、地域連携に基づき、学生や市民に対して防災・災害ケアの意識向上を図り、いざ発災後には個々の立場で活動が積極的に行えるような準備として、「公開講座」を継続的に開催することと考えています。そして、「わかりやすい市民向け・学生向け」講座として実施することを目指しています。

今回は、その初回として、大学の教職員・学生が一丸となって避難者を受け入れ、多くの示唆に富む運営を行った熊本学園大学の経験(2016 年熊本地震)をうかがうことだと思いました。そこで、当時、45 日間、7 百数十人の避難者を受け入れた大学避難所運営の統括を行った花田昌宣教授に基調講義を行っていただきました。避難者のもともと置かれていた環境、その他個々の身体状況などなどはさまざまであり、支える教職員や学生にとっても、すべてが初めての経験となる発災後の状況に対して、どれだけ臨機応変な対応で、避難者個々人をしっかりと見つめ、状況に応じた判断力をもつか、そのことが強調されていたように思います。

私たちは、これから多角的な対応を総合的に行うために、行政、企業、大学、自治会等を含む市民、などの機能を有機的につなげ、そのため相互に情報交換を行い、連携する力が必要です。試みとして、行政からはハザードマップに関して、大学からは学内の災害準備状況について、教員からは生活不活発病のこと、情報収集のことなどをショートレクチャーしてもらいました。

これらについて、果たして視聴してくださった方々はどのように受け止めてくださるか心配でしたが、終了後のアンケート回答からは、プラスの評価を多く

いただき、また改善すべき点も気づかせていただきましたので、次年度以降の講座の内容に活かしていきたいと考えております。

今後とも、関係機関と連携して、災害への備えと対応をきちんとできるよう官産学民と力を合わせて進めていきたいと考えております。

まずは、本報告書にお目通しいただき、それぞれの足元での防災・減災・発災時の行動などを振り返っていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

Ⅰ－2　ポスター

Research Center for
Regional Cooperation and Disaster Care

「防災・災害ケア基礎講座」

公開講座

地域連携に基づき、学生や市民の方々に対して防災・災害ケアの意識向上及び発災後には個々の立場で活動ができるよう「防災・災害ケア講座」を定期的に提供することを目指しています。初年度は、わかりやすい学生向け・市民向けの入門講座として開講し、受講者の災害に対する意識を高めることを目的とします。

厚木地区の特徴、厚木学園大学は、「どれをも受け入れる」「[illegible]はしないが、[illegible]する」との方針で、[illegible]の居場所づくりに成功している。そして、形式的な[illegible]ではなく、「日常の中でもわれている[illegible]力を活用する」[illegible]として見事に成功した45日間の実績をリアルに紹介する。

対　象

主として、厚木市内5大学の学生及び市民の方々
(市外の参加者も可)

実施方法

○コロナ感染対策を考慮し、今年度はzoomセミナー。
○なお、今回の講座では、受講者に簡単なアンケートを取り、次年度以降のプログラム作成に役立てさせていただきます。

実施日時

2021年9月7日(火曜日)

参加方法

・参加費無料
・参加申し込みは、下記アドレスから登録
URL:https://kait-ccd.jp/
(トップページのお知らせの欄から入ってください)
QRコードからも登録できます▶

プログラム(1日講座の日程)

【午前の部】
10:30 開講挨拶　神奈川工科大学　小倉　一三学長
10:35 趣旨説明　地域連携災害ケア研究センター長　山本敬[illegible]特任教授
10:40 基調講演「厚木地区にて大学が地域[illegible]を実践した結果から
～災害弱者を排除しない地域の[illegible]をめざして～」
厚木学園大学国際[illegible]学科　若林 [illegible] 教授
11:40 [illegible]
地域連携災害ケア研究センター長　山本 敬[illegible]
地域連携・[illegible]センター長　小川 [illegible]
12:00 昼休み・休憩

【午後の部】
13:00 「厚木市のハザードマップの説明と防災の取組」
厚木市危機管理課
「神奈川工科大学の防災・災害対策の取組」
神奈川工科大学総務部
13:50 「[illegible]生活における「仕事や地域」を守るには?」
神奈川工科大学基礎教育・教育センター　高橋 [illegible] 准教授
14:35 「災害時における情報収集のポイント」
神奈川工科大学情報ネットワーク・コミュニケーション学科
塩川 [illegible] 教授
15:20 講座のまとめとアンケートのお願い
15:30 終了

主催：神奈川工科大学 地域連携災害ケア研究センター　共催：厚木市大学連携・情報協議会　協力：厚木市

地域連携災害ケア研究センター

問い合わせ　神奈川工科大学 工学教育研究推進機構 地域連携・[illegible]センター内(地域連携災害ケア研究センター管理室)
Tel:046-291-3153　Fax:046-291-3212　E-mail:contact@kait-ccd.jp

Ⅰ―3　プログラム

「防災・災害ケア基礎講座」(公開講座)
プログラム
2021 年 9 月 7 日(火曜日)
【午前の部】
10:30 開講挨拶 神奈川工科大学 小宮 一三学長
10:35 開催趣旨 地域連携災害ケア研究センター長 山家 敏彦 特任教授
10:40 基調講義「熊本地震にて大学が避難所を開設した経験から
～災害弱者を排除しない避難所運営をめざして～」
熊本学園大学福祉環境学科 花田 昌宣 教授
11:40 指定質問者による質疑
神奈川工科大学 久保田 昌彦 理事
地域連携災害ケア研究センター長　山家　敏彦　教授
地域連携・貢献センター長 小川 喜道 地域連携統括コーディネーター
12:00 昼休み・休憩

【午後の部】
13:00 「神奈川工科大学の防災・災害対応の取組」
神奈川工科大学管財課
１3:25 「厚木市のハザードマップの理解と防災の取組」
厚木市危機管理課
13:50 「長期避難生活における「生活不活発病」を防ぐには？」
神奈川工科大学基礎教養・教育センター 高嶋 渉 准教授
14:35 「災害時における情報収集のポイント」
神奈川工科大学情報ﾈｯﾄﾜｰｸ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科 塩川 茂樹 教授
15:20 講座のまとめとアンケートのお願い
15:30 終了
主催・神奈川工科大学 地域連携災害ケア研究センター
共催・厚木市大学連携・協働協議会
協力・厚木市
<開催事務局>
神奈川工科大学 工学教育研究推進機構
地域連携・貢献センター内(地域連携災害ケア研究センター管理室)
E-mail: contact@kait-ccd.jp 電話 046-291-3153 / 046-291-3212

Ⅱ　基調講演

人権を保障するインクルーシブな避難所とは
障害者を受け入れた熊本学園大学の市街時避難所運営の経験

熊本学園大学社会福祉学部
花田昌宣　教授

基礎講座終了後のアンケートからの一部抜粋

○　私は主審が岩手県なので午前の花田先生の講義を聴いて、いろいろ感じるものがありました。災害が起きたとき、マニュアル通りにいかないのは本当にその通りだと思います。（略）災害時の情報収集についてのお話はとても興味深いものでした。実際、東日本大震災の時、情報が全然入ってこなくて大変だったことを思い出しました。

○　大学が災害において地域と協働で取り組む姿勢を大変心強く思いました。

○　災害が起きた際に自分たち学生でも、力になれることがあることを知り、災害への意識を高めようと思いました。

2021年09月7日 神奈川工科大学

人権を保障するインクルーシブな避難所とは

障害者を受け入れた熊本学園大学の災害時避難所運営の経験

熊本学園大学社会福祉学部
花田昌宣

自己紹介に代えて

- 熊本学園大学社会福祉学部教授、水俣学研究センター長。
- 社福法人くまもと障害者労働センター理事長
- 2011年　東日本大震災の訪問調査・支援
- 2016年　熊本地震の際の避難所運営
- 2017年～　大学で、「災害と社会」「災害と社会演習」災害避難所調査研究の実施
- 2020年7月　豪雨災害調査（球磨川氾濫）

概要

- 災害とは何だろうかをまず考え、熊本地震を振り返る。被災者であり被災者支援をすることの大切さ。
- 発災後の支援。熊本学園大学は指定避難所ではなかったが、4月14日の発災直後避難所を開設。16日の本震後、避難してきた地域の人々750名。5月28日に閉所するまで、24時間支援体制を構築した。最後の住民の行き先が決まった時点で閉所。
- 地域の「災害弱者」といわれる人々を受け入れ・実践したことは、地域住民ばかりではなくメディアや災害関係者から、高く評価された。その経験と教訓、将来への課題を提起する。

2

話の骨子

- 災害とソーシャルワーク
- 自然災害と熊本地震
- 熊本地震と熊本学園大学避難所
- 障害者を受け入れた避難所の運営
- 「福祉避難所」ではなく。。。。。
- では、どうすればいいのか
  - 福祉臨床、臨床心理を学ぶ者にとっての課題

3

防災の取り組みと人権保障

- 防災とは
- （災害を防ぐ、自然災害は回避出来ない）
- とすれば、
- 事前、個々人の取り組み
- 組織としての取り組み

最近の災害（2016熊本地震以降）

2016年4月14-16日熊本地震 震度7
2017年7月北部九州豪雨災害　朝倉・日田
2018年6月18日　大阪北部地震　震度6弱
2018年7月広島・岡山豪雨災害
2018年9月台風21号 近畿地方
2018年9月6日 北海道胆振東部地震 震度7
2019年1月3日　熊本県熊本地方　震度6弱
2020年7月4日　豪雨災害（球磨・人吉、芦北）

5

熊本地震（2016）の概要

4月14日21時26分
震源：熊本県熊本地方、深さ11km
規模：マグニチュード6
震度：7
4月16日1時25分
震源：熊本県熊本地方　深さ12km
規模：マグニチュード7．3
震度：7

6

文化財（熊本城）

家屋の倒壊

農地被害

7

人的・物的被害の状況

(1)人的被害（2016年4月14日からの累計）（人）

- 死亡　270 名 （2019年5月8日時点、関連死・二次災害死220名含む）
- 重傷　1149名　　軽傷　1604名
- 避難者総数　18万人 （発災後、避難所に避難した人数）

(2)家屋の被害、生活環境の損害

（2）―1　仮設住宅（2019年5月8日時点）→　ほぼ退去

- （ア）応急仮設住宅の建設：16市町村で4303戸の建設
  - 1993戸、4640人
- （イ）民間賃貸住宅の空室提供（みなし仮設）15306戸
  - 5117戸、11543人
- （ウ）公営住宅1836戸
  - 134戸、336人

- （2）-2　災害公営住宅（熊本県による整備）　→　整備完了
  - 整備計画　1717戸、工事完了は10市町村496戸
  - それ以外は「設計・工事着手」・・・

8

大規模災害時における障害者・高齢者の避難

- 災害対策基本法の改正（H25年、H30年）と「地域防災計画」および「避難行動要支援者」
- 名簿の作成の義務づけと活用
- かつての「災害時要援護者」の内、避難に支援を必要な人。
  - 要介護認定を受けている人
  - 障害者手帳保持者
  - 難病患者
  - 自治体等が支援必要とみなした人
  - 自ら掲載を希望した人

避難支援と個別支援

- 避難支援等を実施する基礎とするための避難行動要支援者名簿を作成しなければならないこととし、原則として、避難行動要支援者本人の同意を得て、消防機関、自主防災組織、民生委員等の関係者にあらかじめ名簿情報を提供するとともに、当該名簿の作成に必要な範囲で、要配慮者に関する個人情報を活用できることとしたものである。

- 市町村に名簿の作成を義務付け　作成率99.2%
  - 要介護者、障害者手帳などから自治体が作成
  - 平時には、本人同意の上、関係組織に提供
  - 災害時には、自治体の判断で名簿の提供（安否確認から避難支援まで）

- 名簿の活用
  - 個別支援計画　自治体の判断
    - 災害発生時の支援者、家族構成、住宅の様子、避難先と避難経路 などさまざま
  - 個別支援計画を策定している自治体
    - 名簿登載者全員 9.7%
    - 名簿登載者の一部 56.9%
    - 策定していない 33.4%

障害者の災害時死亡率

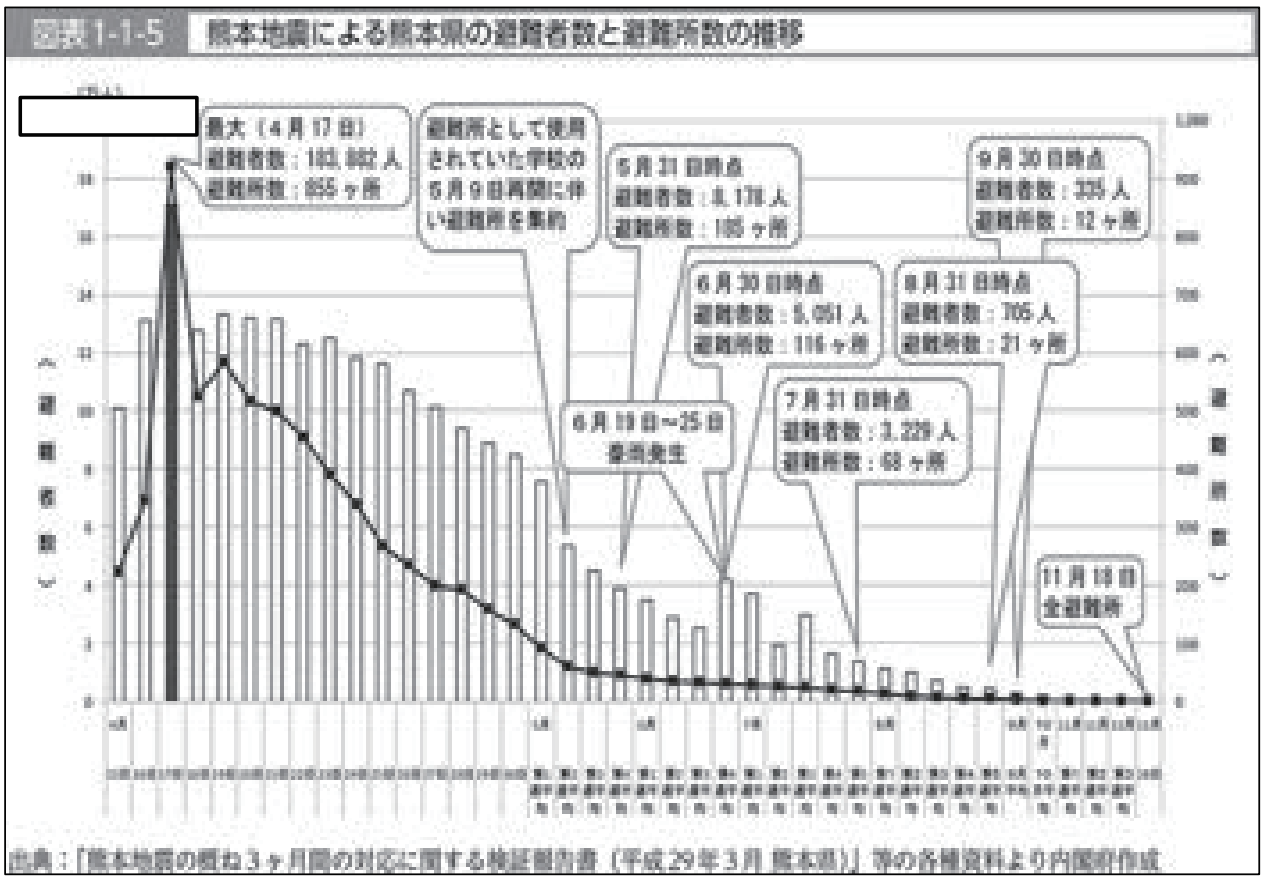
東日本大震災時における障害者の死亡率は約2倍（NHK調べ）

宮城県の大震災による死亡率

総人口比で0.4%

障害者手帳所持者比で1.7%

「障害者白書」, 2012年　59-60ページ



災害関連死と避難所

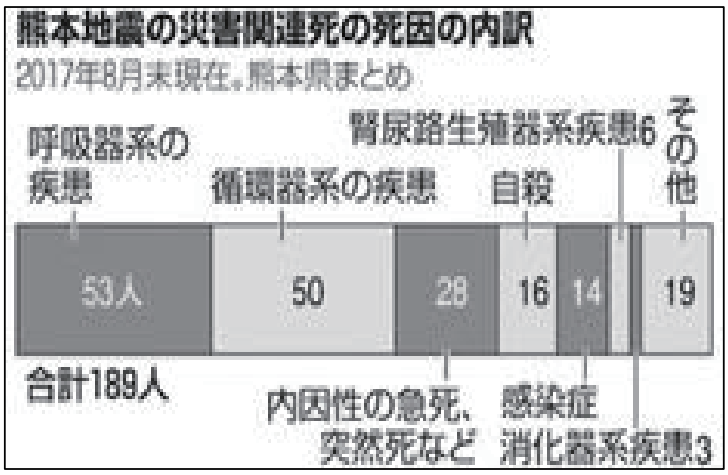
震災関連死とは、地震による家屋倒壊など直接的被害ではなく、その後の避難生活での体調悪化や 過労など、間接的な原因で死亡すること(別称:災害関連死)

- 熊本地震における災害関連死197人(平成29年12月末時点)
- 性別　　男性103人（52.3%)　女性94人（47.7%）
- 既往歴の有無　　あり172人（87.3%）　なし　19人（9.6%）「あり」は要介護認定者や薬服用者を含む
- 年代（多い順）　　80代（35.5%）, 70代（20.8%）, 90代（19.8%）, 60代（13.7%）全体の約8割が高齢者
- 発災から死亡までの期間　3ヶ月以内が167人、全体の約8割
- 原因区分（多い順）「地震のショック、余震の恐怖による肉体的・精神的負担」 100人（40.2%）

「避難所など生活の肉体的・精神的負担」74人（29.7%）
「医療機関の機能停止等(転院を含む)による　43人（17.3%）
　初期治療の遅れ(既往症の悪化及び疾病の発症を含む)」
「電気、ガス、水道等の途絶による肉体的・精神的負担」　　13人（ 5.2%）
「社会福祉施設等の介護機能の低下」　　7人（ 2.8%）等

※（参考）　死因:自殺　16名（8.1%）

災害関連死と震災対応



関連死が極めて多い、直接死の4倍以上

189人中16人（8.5%）が自死

発災後の避難生活に問題はなかったかという問いの必要性

⇩

避難所の意義と役割
仮設住宅・・・・

地震後、高齢者など配慮が必要な人が慣れない環境で長期間、避難生活を強いられたことが主な要因（熊本県）

＊被災自治体のうち関連死認定をしている20自治体のうち死因を公表しているのは11。

14

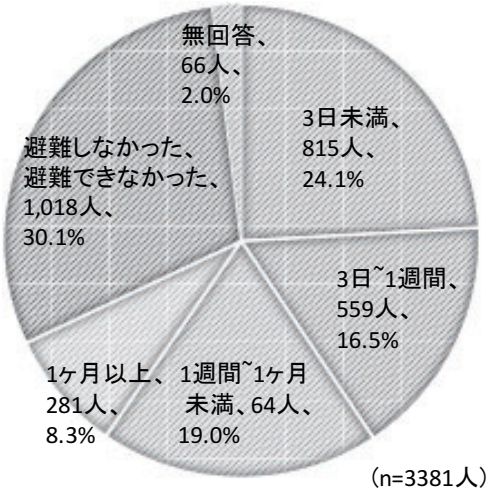
熊本地震発生後、最も長く避難した場所
（インターネット回答者（N=1,322,MA）

市町村が指定した避難所(指定避難所)	**342**	**25.9%**
指定避難所以外の避難所(公共施設、民間施設)	**156**	**11.8%**
指定避難所かどうか分からないが、避難所	**75**	**5.7%**
福祉避難所	**4**	**0.3%**
親戚・知人宅	**362**	**27.4%**
自動車の中(重複除く)	**910**	**68.8%**
※自動車の中(避難所の駐車場)	326	24.7%
※自動車の中(スーパーなど店舗や遊技場の駐車場)	133	10.1%
※自動車の中(ご自宅の駐車場や周辺の道路	489	37.0%
※自動車の中(医療機関や福祉施設)	18	1.4%
※自動車の中(上記以外)	116	8.8%
自動車を除く屋外	**33**	**2.5%**
その他	**145**	**11.0%**
未回答	**1**	**0.1%**
回答計	**2,200**	

（出所）「平成28年熊本地震に関する県民アンケート調査 結果報告書」、熊本県知事公室 危機管理防災課、平成29年3月13日

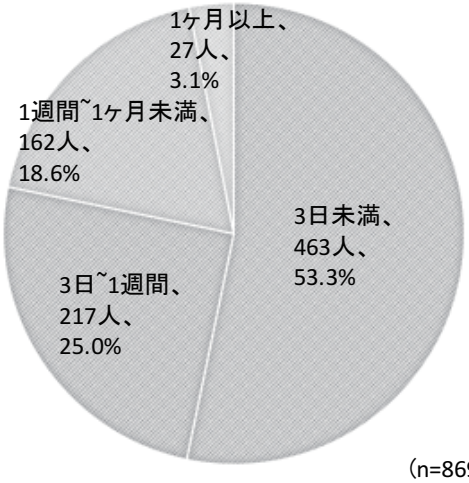
熊本地震被災者避難期間

(a)全回答者を対象とした場合
地震(前震の揺れ)以降、あなたは避難しましたか



(n=3381人)

(b)全避難者から、「自宅建物が壊れ、中で生活することができなかったから」「停電や断水など、自宅で生活する　のが不安な状況だったから」と回答した人を除いた場合



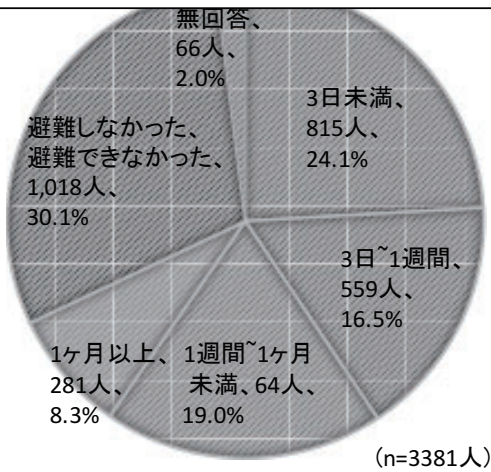
(n=869人)

「平成28年熊本地震に関する県民アンケート調査 結果報告書」、熊本県知事公室 危機管理防災課、平成29年3月13日のデータを用いて内閣府が分析

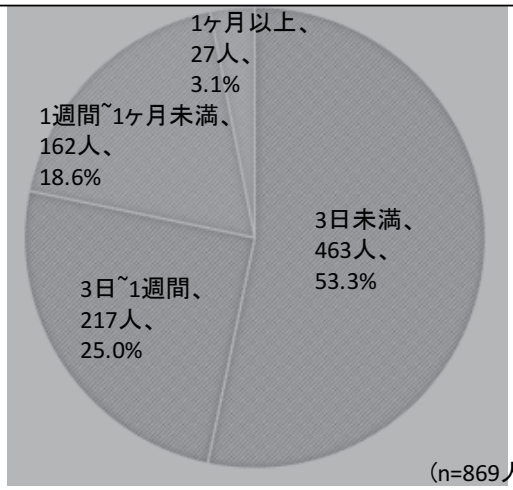
熊本地震被災者避難期間（学園大避難所45日間）

・前震の揺れ以降に避難した人は、全回答者の約7割である。
・避難期間が1週間以内の人は、全回答者の約4割であり、全避難者の約6割である。

・全回答者の3割弱にあたる869人が、自宅被害やインフラ被害がなかったが避難した。
・そのうち、約8割は避難期間が1週間以内であった。



(n=3381人)



(n=869人)

「平成28年熊本地震に関する県民アンケート調査 結果報告書」、熊本県知事公室 危機管理防災課、平成29年3月13日のデータを用いて内閣府が分析

広域避難場所・緊急避難場所・福祉避難所（熊本市）

- 広域避難場所 ：

地震などによる火災が延焼拡大して地域全体が危険になったときに避難する場所

【熊本市内18カ所】（例）大江地区4カ所（熊本学園大学、白川中学校、開新高校、熊本高校）

- 指定緊急避難場所（一時避難場所）

災害時危険を回避するために一時的に避難する場所【熊本市内257カ所】

（例）大江校区8カ所（熊本学園大学ほか）

・指定福祉避難所

事前に協定を締結する社会福祉施設等に設置する避難所で、要配慮者等を滞在させることを想定した避難所（熊本市内168カ所、市外18カ所）

・指定子ども福祉避難所

熊本市内にある特別支援学校内に事前に締結する協定に基づき設置運営する。対象は、支援学校や特別支援学級に通学する障がい児及びその家族等とする。また、必要に応じ、一般の避難所での生活が困難であるなど 特別な配慮を要する障がい児・者及びその家族等。（熊本市内の特別支援学校（現6校））

大規模災害と障害者

東日本大震災　障害者の居場所がなかった

熊本地震　障害者の居場所がなかった

障害者はどこにいたか

- 被災地障害者センターの調査　避難所回り、障害者がいない

障害者への配慮がない

- 地震前と同じ状況で、地震が起きた時に自ら身を守るしかなかった

結局　避難所転々、車中泊、壊れた自宅の片隅

19

大規模災害（地震）と障害者

- 障がい者が取り残された
- 東日本大震災　津波災害
- 南相馬の経験
- 　　地震、津波、原発事故
- 避難指示：避難出来ない人たちの存在
- 避難指示前に自主避難した人達
- 残された障害者たちの現在
- 　　ヘルパー、介助者がいない
- 　　若い人たちが放射線から逃れて戻って来ない
- 熊本ではどうだったか
- 避難所で断られたケース
- 在宅での困難

災害時避難の大前提

- 発災までは、地域で在宅で暮らしていた人たちが、自力で避難してくる。
- 施設から来るわけではないので、地域の中でどうしていくのか。
- 避難所が受け入れなければ、その人たちの行き場がなくなる。
- 一般論では分かっていても実践できていないこと、こんなことが起きてはいけないよということは簡単だが。
- 熊本学園大学では、何を実践したか、なぜ実践できたか　→　インクルーシブな避難所

21

障害者差別解消法（2016年4月施行）:
合理的配慮提供

- 障害（あるいは高齢による要介護）を理由として、
  - 一次避難所から排除される
  - 避難生活を送ることが困難になる
- 合理的配慮の提供の例　　2021年より民間事業者も努力義務から、合理的配慮の義務化
  - 災害下での　合理的配慮義務は???
- 情報提供程度しか考えられていなかったが、それ以前に、かつては災害対策においては、そもそも障害者がいないことにされていた。
- 合理的配慮義務とは、実践場面では???

22

熊本学園大学避難所
指定避難所ではなかった

- 4月14日（木）　前震（M6.5）、14号館を避難者へ開放
  約110名の避難者が訪れる
- 4月15日（金）　熊本市が避難所対応で1名来学
- 4月16日（土）　本震（M7.3）、14号館避難所本部設置
  14号館高橋守雄ホール内にしょうがいのある方のための避難所を設け、社会福祉学部教員と学生を中心に支援開始
- 4月17日（日）　避難所「炊き出し」開始
- 4月18日（月）　隣接するスポーツジムにシャワー利用依頼
- 4月23日（土）　避難者個別ヒアリング開始
- 5月9日（月）　授業再開　授業と避難所は並行して実施
- 5月28日（土）　14号館避難所閉鎖

23

避難所の開設と課題：地域の様々な人々を受入れる：避難所は地域の縮図

4/16　発災日→　4/26

24

本震4/16　16時　多数の自主避難者と車椅子利用者

160416 16:01

25

熊本学園大学の避難所

26

27

避難所運営マニュアルは？
初動期は使えない

- 避難所マニュアルがなかった。
  - われわれも知らなかった
  - 派遣された市職員も知らなかったらしい
  - 見るゆとりもない
- マニュアル通りにはいかない。
  - 熊本県のマニュアル（H25年3月）68ページ
  - 熊本市のマニュアル
    - 改訂版：福祉避難所で3冊
- マニュアルもネットもないという状況の想定。

28

地域に様々な人たちがいて、その人たちが避難してくること：その中に地域の中で暮らす障害者がいた

◇ 排除、隔離しないという当たり前の原則

◇ 障害者であれ「要配慮者」「要援護者」であれ、地震が起きる前までは地域に暮らしていた人たちで、施設入所者ではないこと。

◇ だから、障害者・高齢者を「福祉避難所」へ、という考え方をとらない

29

「管理はしない、配慮する」原則について（1）

（避難所マニュアルは役に立ったか）

◇　ルール・規則は作らない。
事態は常に動いている
規則を作ると、守るためのエネルギーと時間が必要

◇　入所者名簿は作成しなかった（緊急時）。意味がない。人数把握だけで十分ではないか

◇　出入りも自由。常に受付に人が複数いる。
◇　ペットの規制もしなかった。・飲酒規制もしなかった

30

「管理はしない、配慮する」原則について（2）

◇　厳密な役割分担も決めなかった
そこにいる人がその場で対応する
責任体制　常駐者を中心に、２―３人が全体を統括

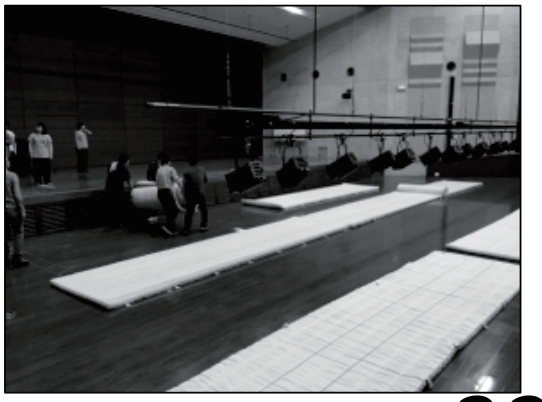
◇　それで混乱は起きなかった→なぜか

◇　では、何をしていたか
清掃、物資調達、医療・健康、介助体制
外部対応（メディア、訪問者、ボランティア・・・・）

31

障害者らの受入れ：障害者スペースの確保

「福祉避難所」ではなく
障害者に対する合理的配慮としての
ホールの開放と支援体制



32

4/16本震17時
14号館記念ホールを車椅子利用者に開放
～体操用マット搬入と照明機器を用いた男女の間仕切り～

4/16 16:57

4/16 18:27

4/17 5:56

33

災害避難所に障害者・高齢者のいる風景

34

4/18車椅子利用者に配慮した空間設定

35

車椅子使用から高齢者に配慮した空間設定に変更
～既製ダンボールベッドと手作りダンボールベッド～

◇床に寝ているとやち上がりが困難に

◇既製の段ボールベッドは必要なときに数が足らない

◇支援物資の段ボール箱の活用

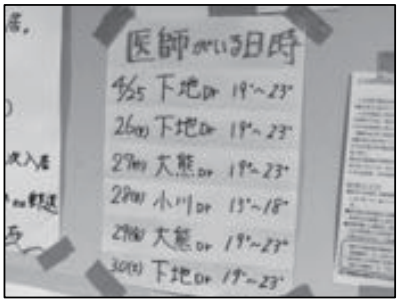
◇相談しながら人に合わせて作る

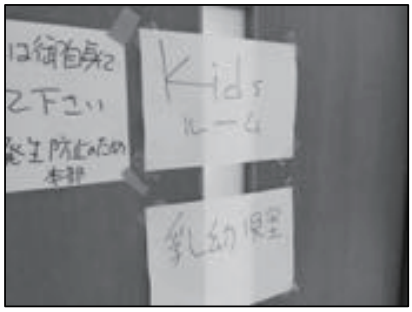
◇ベッドが使えない人たちも

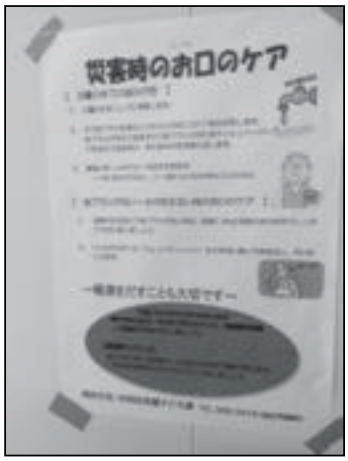
36

気をつけたこと：
生活環境の確保と体制づくり

健康保持、衛生環境保持は最低限、母子への対応
水・食料の確保
絶えず人がいること：運営者、専門職、学生（全てボランティア）
閉所（5月28日）まで、24時間態勢の維持

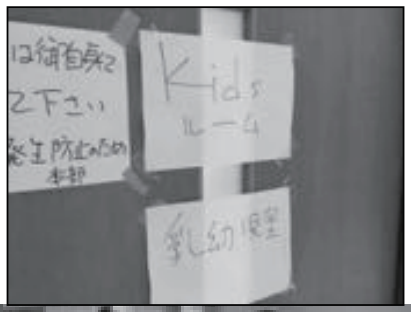


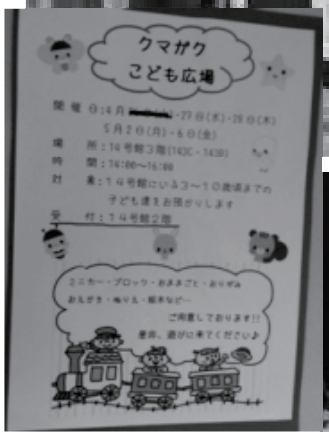




37

○母子対応、衛生
4/17乳幼児室開設　4/18シャワー受付
子ども向けイベントの実施

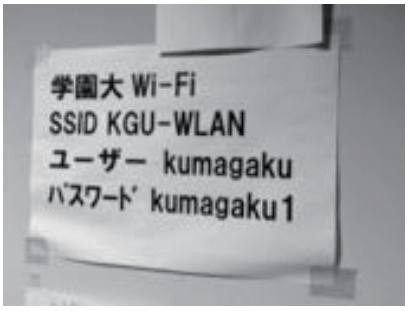




38

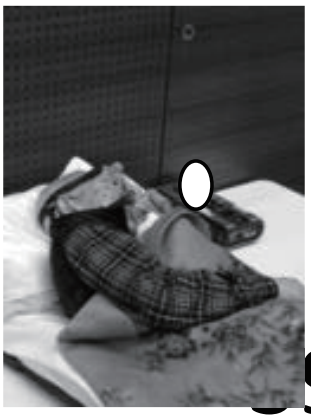
さまざまな配慮例

情報提供



健康保持・体調維持の一環として

電源確保



39

物資・食事の提供体制

水の確保

井戸水は使えない（熊本は阿蘇山の伏流水による井水は多いが）
衛生管理

ガスが使えない

炊き出しの体制

700人分をどう作るか
調理場ではなんともならない
我々のしたこと
外部の炊き出しの受け入れ
衛生管理と実際

40

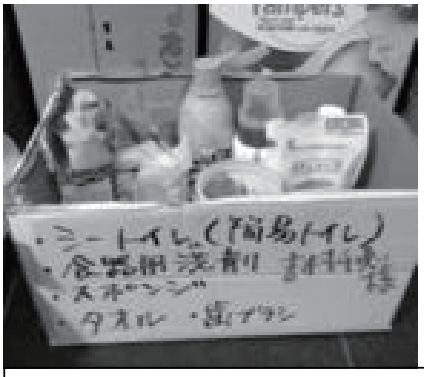
食料：　本震翌日4月17日：学生の炊き出し開始（初期）
火気使用禁止の公的施設では？

41

学生によるごみの分別

支援物資毛布の消毒と天日干し

「非日常のくらし」の根幹を守る配慮



手作りトイレ掃除セット（感染疑いある人用・普通の掃除セットと別）

ウィルス感染を軽減する機器

本学体育館シャワー室

ゴミ分別

当初、燃えるゴミのなかに飲みかけのカン・ビン混在
「非常事態だからしょうがない」

・感染の媒体となるハエや蚊を発生させない
・ゴミ収集に来る人たちがスムーズに収集してもらえるように

ペットの環境づくりは
ボランティアの動物看護師に依頼

44

45

避難所収束と個別的配慮：
縮小段階での個別対応

原則：必要とする人がいる限り運営者（大学）の都合で避難所は閉じない。→他の避難所が閉じられていく中で避難者に宣言

避難所から、自宅、新たな住居など次のステップに行くことを支援。4月23日から、個別ヒアリングと段階的縮小

一般的ニーズ調査ではなく、我々ができるメニューを準備した上で話を聞くという姿勢□すぐに対応できること

片付けボランティア、福祉サービス事業者と連携、住居探し…

46

私たちの避難所運営の心がけ

- 実態やニーズの把握：常駐体制、学生たちが多数参加
- 情報の提供：地元新聞、掲示、サーバーの開放
- 生活環境の改善、被災者の声を聞く：ヒアリングの実施
- 交流の場の確保：ロビーに湯茶コーナー、テーブルと椅子
- 被災者の自治と参画：できなかった。自主的に手伝う人たちが出て来た
- （地域における）専門機関や団体等とのネットワークの活用
- 教員の持つ全国的なネットワークの活用

47

今後に生かすべき教訓（良く機能した点、課題等）

最後に：私たちは当たり前のことをしていたつもり、なぜ他の避難所ではできなかったのか。教室を一つ開放すれば障害者スペースはできたはず。

◇　震災前のあり方が問われる
バリアフリーの大学：トイレ、スロープ、教職員の意識
障害学生が多数いる：日常風景の中の障害学生
地域の障害者・高齢者との日常的交流

◇　地域に共生社会を根付かせよう
学校・公共施設に障害者などが見えなければ、配慮がされない

◇　緊急時の柔軟な組織運営：手続きとマニュアル思考では動かない

48

ご静聴ありがとうございました
避難所の閉鎖　５月２８日（45日間）

49

Ⅲ―1

厚木市のハザードマップの理解と防災の取組

厚木市危機管理課

基礎講座終了後のアンケートからの一部抜粋

○　厚木市のハザードマップについて知りたかったので参加しました。今後、さらに厚木市の洪水や川の氾濫について、また、厚木市街地の最新の内水の状況なども知りたい。

○　自分の住んでいる地域の災害の起きた時の情報の見方や避難時などの運動の方法などを知りことができて、とても勉強になりました。きちんと覚えて、家族と話し合っていきたいです。

○　今回のセミナーでは厚木市における防災と災害に対する取組について知ることができた。

○　今回のセミナーを通じて、自分の地域のハザードマップを確認しようと思いました。

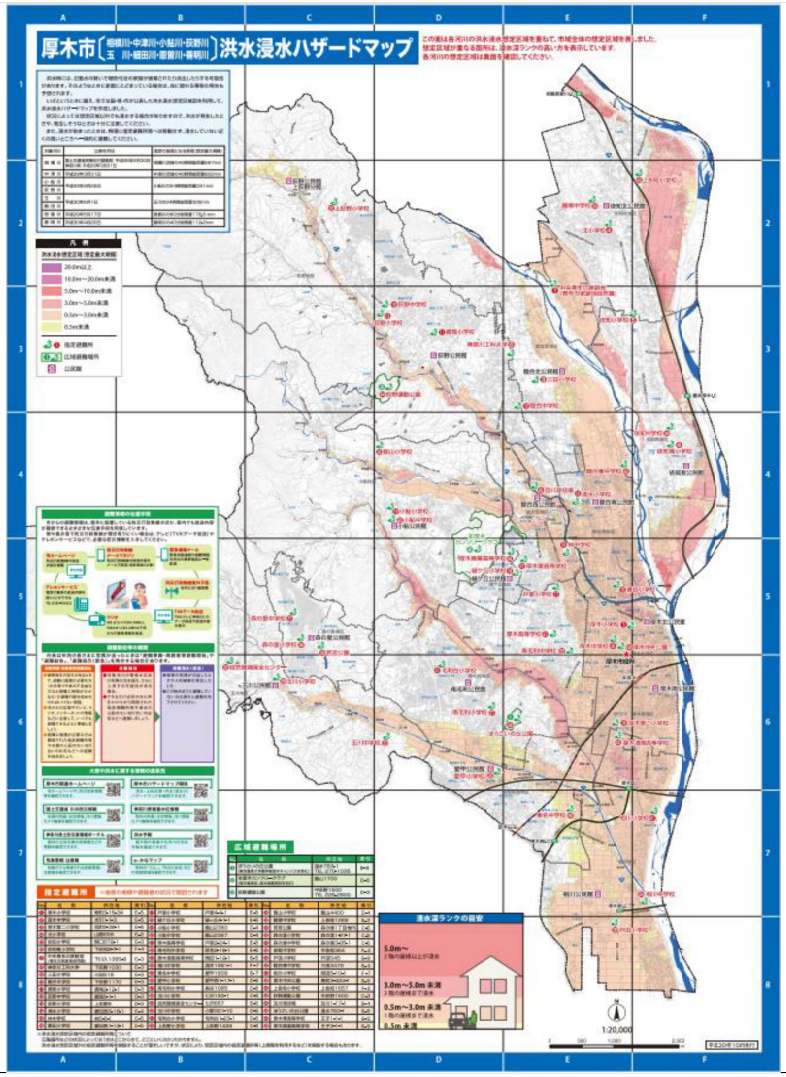
厚木市の防災対策

ハザードマップについて

洪水浸水ハザードマップ

土砂災害ハザードマップ

内水（浸水）ハザードマップ


厚木市〔相模川・中津川・小鮎川・長谷川・玉川・磯田川・恩曽川・鳶嶋川〕洪水浸水ハザードマップ

厚木タウンマップ | トップ
w2.wagmap.jp/atsugi/Portal
厚木タウンマップ -厚木市地図情報システム-
Atsugi Town Map
使い方ガイド
「厚木タウンマップ」とは…
地図を利用して厚木市の地域情報や行政情報をインターネットを通じて公開・提供するサイトです。
お知らせ
2019-10-24
■三田地区の住居表示は本システムには反映されていません。 準備でき次第お知らせします。
2019-10-4
■都市計画情報マップについて 令和元年５月24日付けで森の里東地区、 令和元年９月13日付けで南部産業団地（酒井地区） 令和元
掲載マップ一覧
ご覧になりたい情報マップの地図検索をクリックすると、検索トップページに遷移します。
公共施設情報マップ
厚木市内の公共施設の情報を検索できます。
地図検索
災害・緊急情報マップ
厚木市内の災害・緊急情報を検索できます。
地図検索
在宅医療・介護・福祉情報マップ
厚木市内の在宅医療・介護・福祉情報を検索できます。
地図検索
都市計画情報マップ
厚木市内の都市計画情報等をご覧いた
建築基準法道路マップ
厚木市内の建築基準法道路をご覧いた
下水道情報マップ
厚木市内の下水道情報等をご覧いただ
洪水浸水ハザードマップ
厚木市内の浸水想定区域をご覧いただ

厚木タウンマップ | 位置選択

/atsugi/PositionSelect?mid=8&nm=洪水浸水ハザードマップ&ctnm=洪水浸水ハザードマップ

厚木タウンマップ -厚木市地図情報システム-

Atsugi Town Map

使い方ガイド

トップページ> 利用許諾> 位置選択

表示マップ： 洪水浸水ハザードマップ

郵便番号・住所から探す

郵便番号・住所またはその一部を入力してください。

三田地区の住居表示は本システムには反映されていません。
準備でき次第お知らせします。

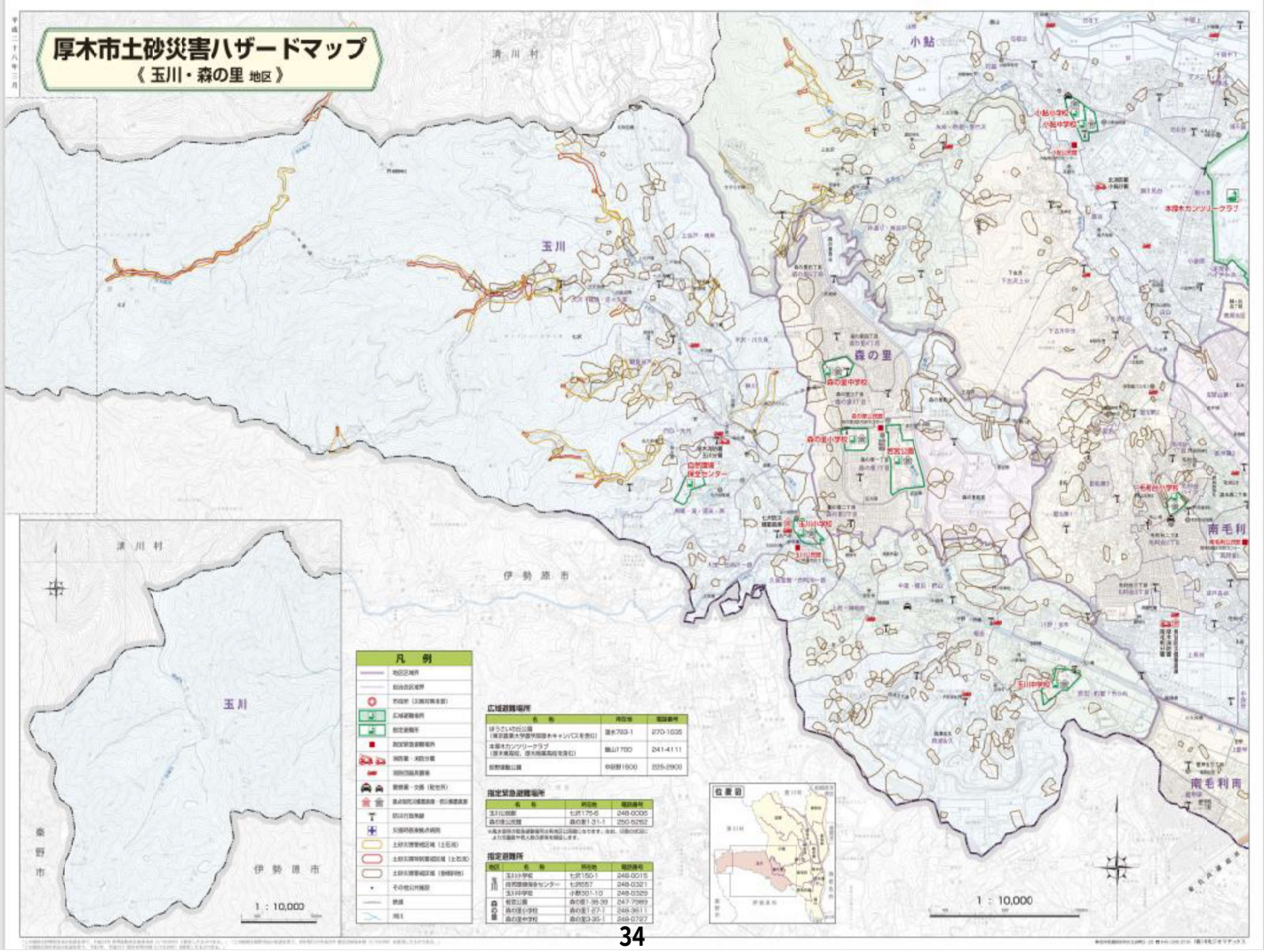
入力例：243-8511、厚木市中町3丁目　検索

◉ 住所から検索　○ 地番から検索

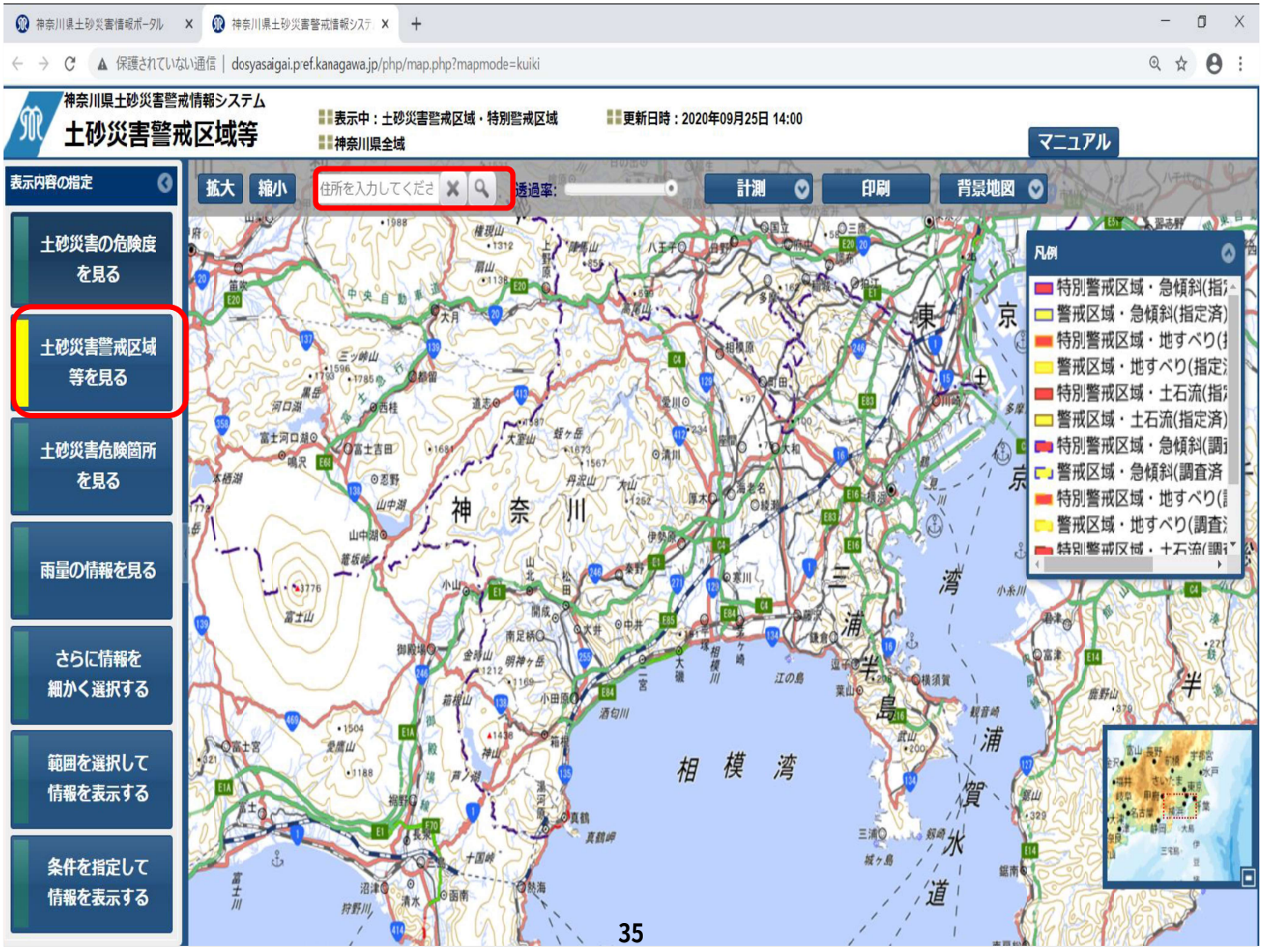
- 住所一覧から選択する場合はこちら
- 地番一覧表から選択

地図から探す

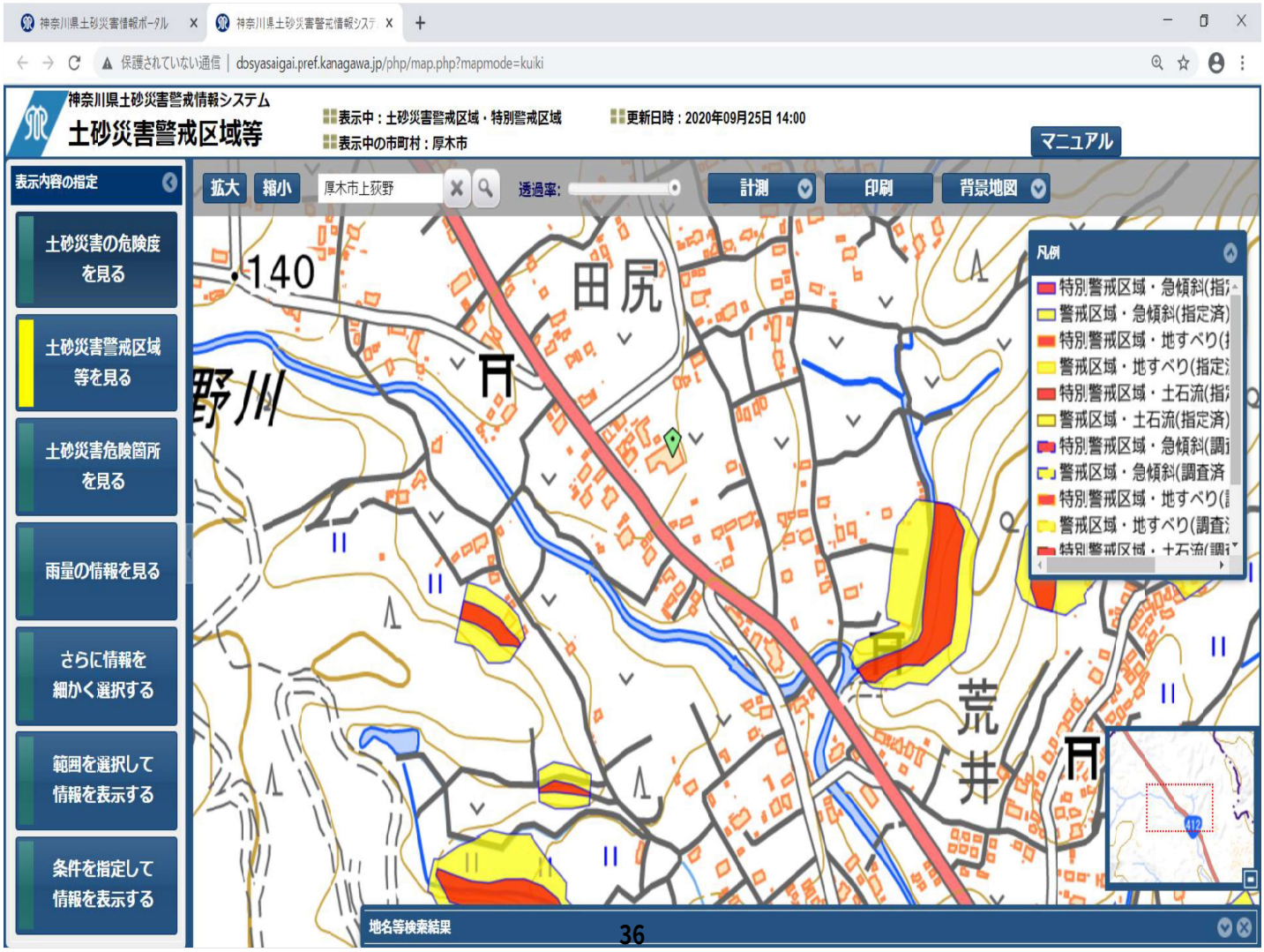
地図上でクリックすると、クリックした位置の地図を表示します。

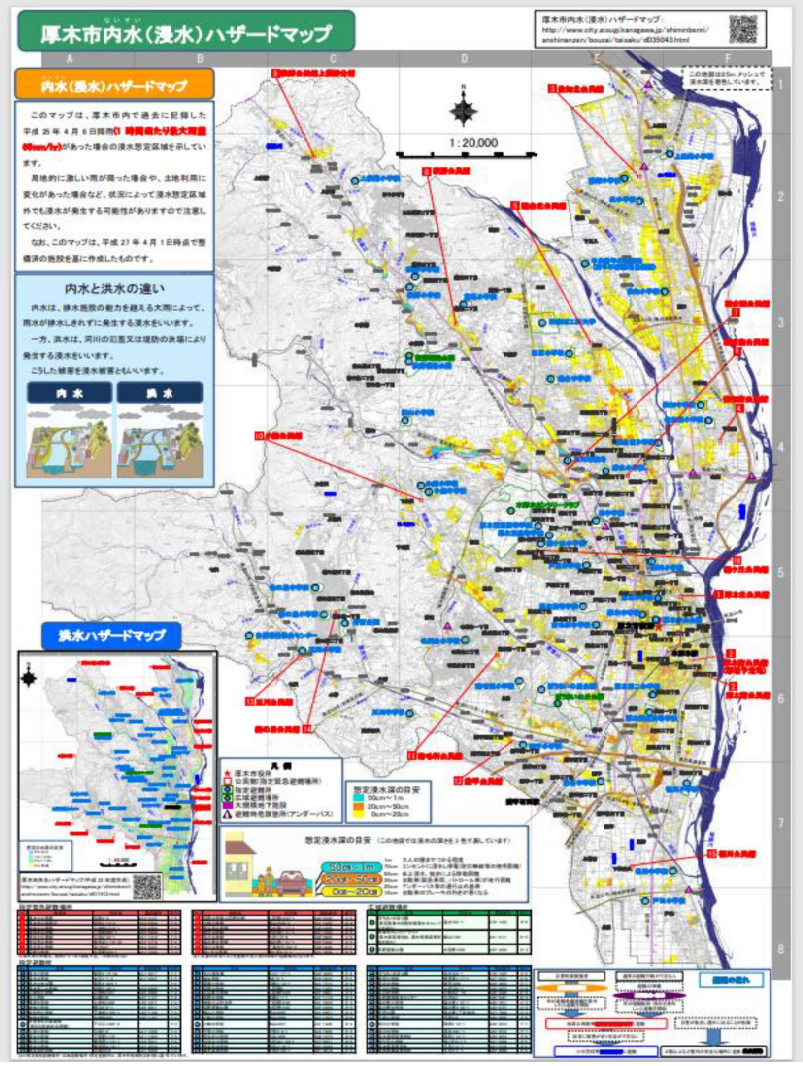


神奈川県土砂災害情報ポータル
保護されていない通信 | dosyasaigai.pref.kanagawa.jp/website/kanagawa/gis/index.html
神奈川県土砂災害情報ポータル
土砂災害から「いのち」を守るために知っていただきたいこと
ホーム
お役立ち情報
しょう。つながりにくい場合は気象庁のホームページも併せてご覧ください。
1 台風や大雨に備えて
○お住まいの場所が、土砂災害のおそれのある区域か調べる。
土砂災害のおそれのある区域
更新日付 令和2年9月25日
○お住まいの地域の避難所や避難経路を調べる。
土砂災害ハザードマップ
2 雨が降り始めたら
○土砂災害警戒情報や雨量の情報に注意する。
※大雨による土砂災害の危険度が高まった時に、「土砂災害警戒情報」が発表されます。
土砂災害の危険度
(土砂災害警戒情報を補足する情報)
雨量の情報
3 大雨になったら
○大雨時や土砂災害警戒情報が発表された際には早めに避難する。
○夜間に大雨が予想される際には暗くなる前に避難する。
土砂災害警戒情報の発表状況
現在、土砂災害警戒情報の発表はありません。
土砂災害警戒情報（気象庁）
ご利用上の留意事項
利用規約
用語の解説


神奈川県土砂災害情報システム
土砂災害警戒区域等
表示中：土砂災害警戒区域・特別警戒区域
神奈川県全域
更新日時：2020年09月25日 14:00
マニュアル
表示内容の指定
土砂災害の危険度を見る
土砂災害警戒区域等を見る
土砂災害危険箇所を見る
雨量の情報を見る
さらに情報を細かく選択する
範囲を選択して情報を表示する
条件を指定して情報を表示する
拡大
縮小
住所を入力してくださ
透過率:
計測
印刷
背景地図
凡例
神奈川
相模湾
東京湾
三浦半島

凡例
特別警戒区域・急傾斜(指
警戒区域・急傾斜(指定済
特別警戒区域・地すべり(
警戒区域・地すべり(指定
特別警戒区域・土石流(指
警戒区域・土石流(指定済
特別警戒区域・急傾斜(調
警戒区域・急傾斜(調査済
特別警戒区域・地すべり(
警戒区域・地すべり(調査
地名等検索結果
位置
住所
名称
種別
厚木市上依知1313-1
依知北公民館（体育館）
文化施設
厚木市上依知1313-1
依知北公民館（体育館）
文化施設
厚木市上依知1313-1
市立依知北公民館
集客施設

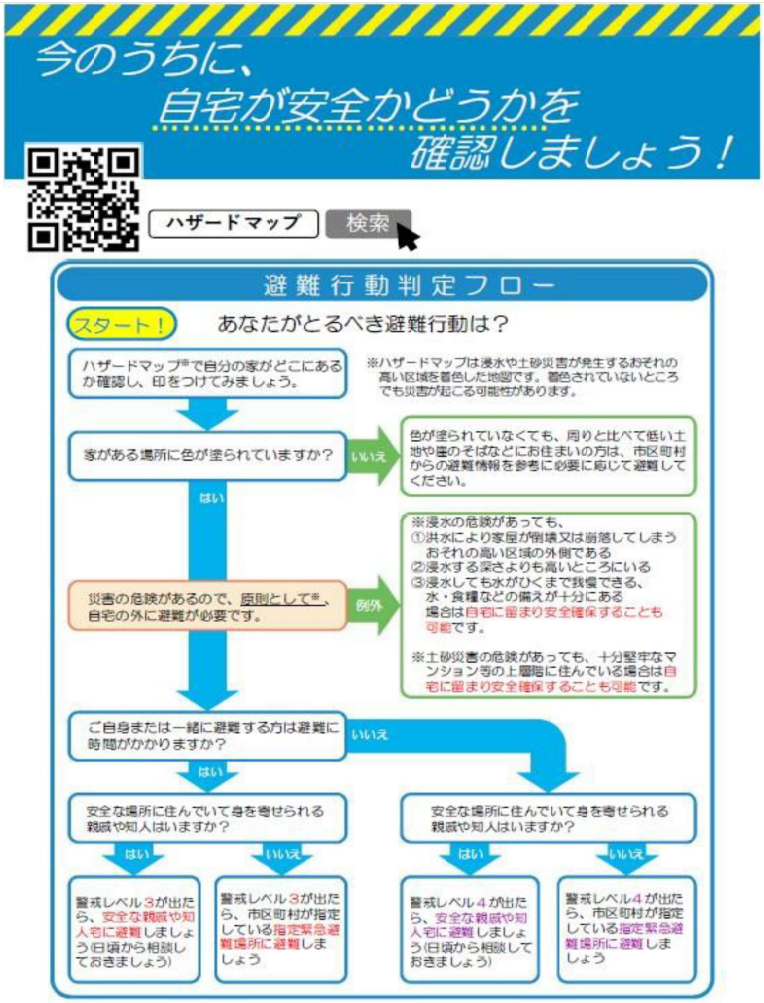

神奈川県土砂災害警戒情報システム
土砂災害警戒区域等
表示中：土砂災害警戒区域・特別警戒区域
表示中の市町村：厚木市
更新日時：2020年09月25日 14:00
マニュアル
表示内容の指定
土砂災害の危険度を見る
土砂災害警戒区域等を見る
土砂災害危険箇所を見る
雨量の情報を見る
さらに情報を細かく選択する
範囲を選択して情報を表示する
条件を指定して情報を表示する
拡大
縮小
厚木市上荻野
透過率:
計測
印刷
背景地図
凡例
地名等検索結果



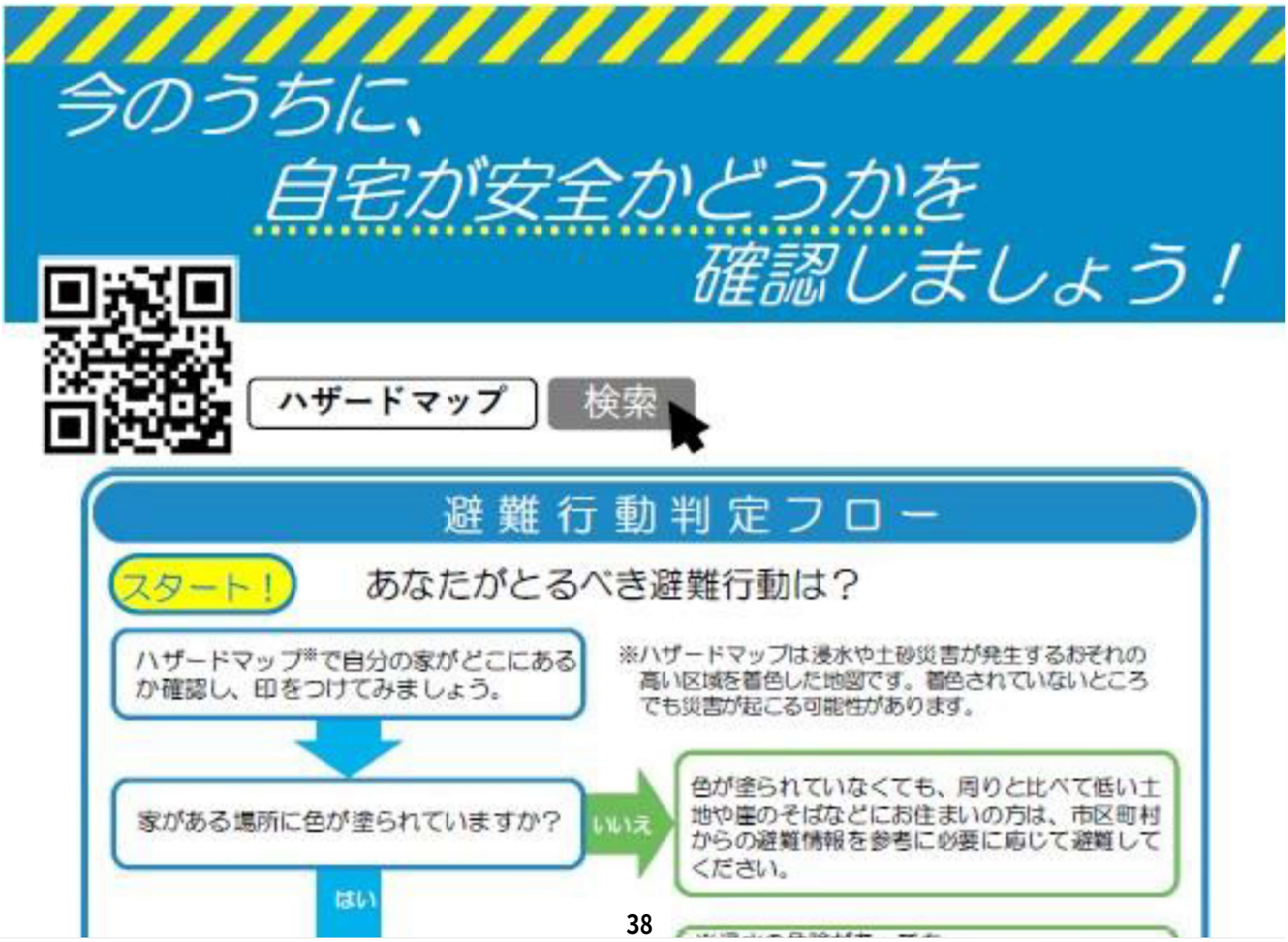
避難すべきか

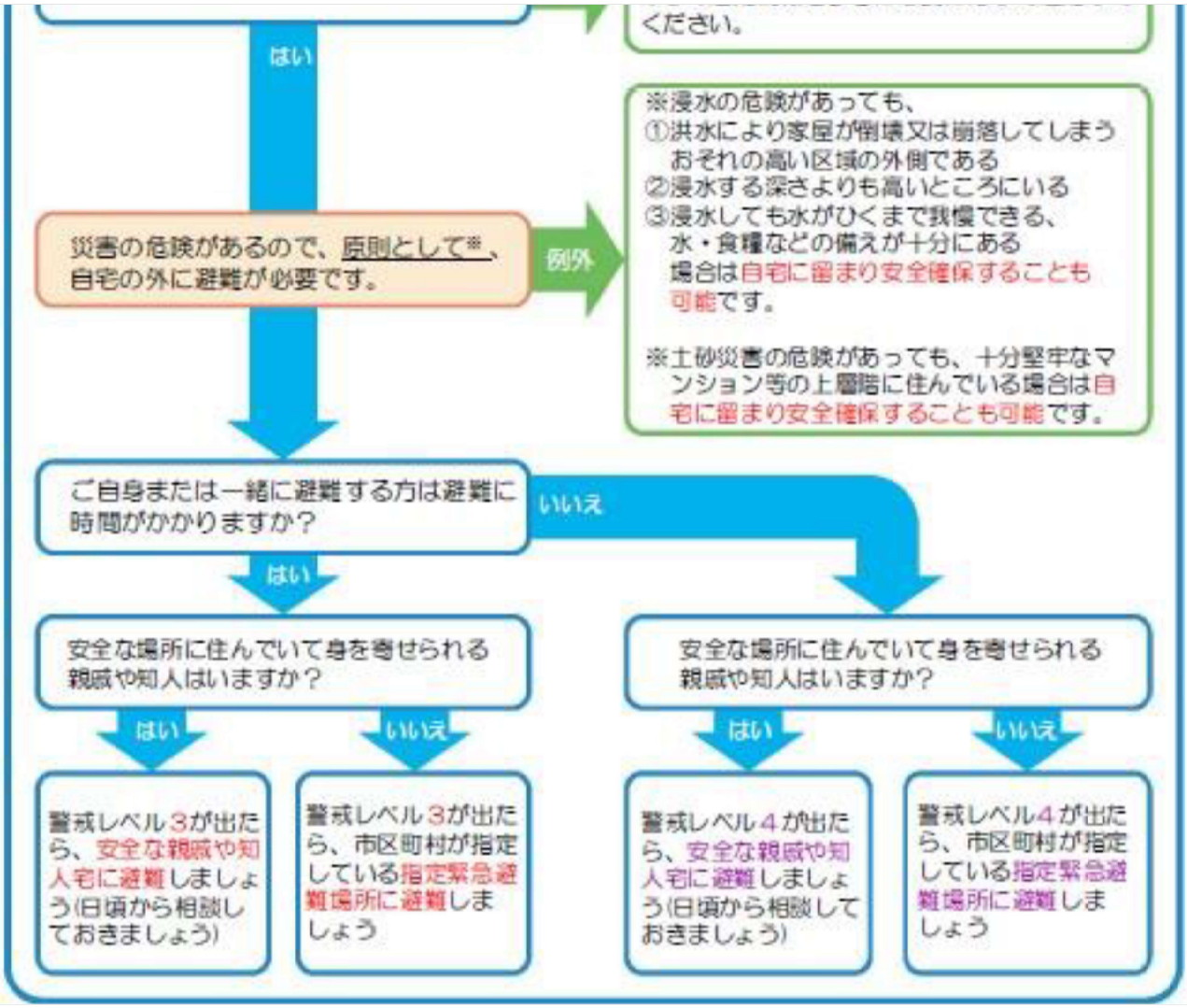
いつ避難するか

どこに避難するか



避難行動判定フロー（内閣府・消防庁）





厚木市の防災対策　避難方法の検討

- **避難とは[難]を[避]けること。**
  安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。
- コロナ禍の避難では**様々な避難方法**を検討しましょう。

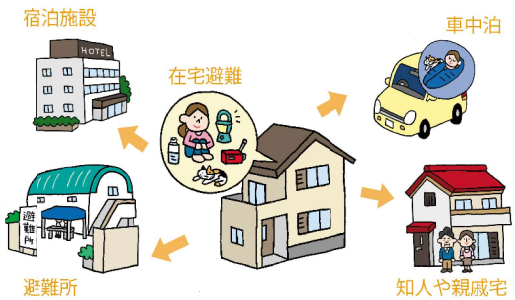
● 在宅避難

◆ハザードマップで自宅の安全性が確認できれば在宅避難を

● 分散避難

◆**避難所に行くだけが避難ではありません。**

安全な知人の家、宿泊施設などに避難することも検討しましょう。



厚木市の防災対策　状況に応じた避難

●災害から命を守るための行動は**状況により変わってくる**。
●市からの避難情報が間に合わない場合や、身の危険を感じたら
より安全な場所への自主避難が重要。

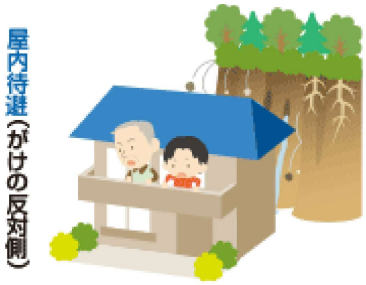
● 水平避難（すいへい）と垂直避難（すいちょく）

◆早い段階で最寄りの緊急避難場所への**水平避難**が最も安全。

◆浸水が始まったり、雨風が強まった中では屋外に出ることは危険なため、堅牢な建物の **2** 階以上への**垂直避難**が有効。

● 屋内退避（おくないたいひ）（がけの反対側）

◆土砂災害の場合、屋内の安全な場所に避難。
（がけの反対側の高い位置にある部屋）



ハザードマップを確認しましょう

- 自宅周辺
- 勤務先
- よく通るところ
- よく行く場所

厚木市を取り巻く様々な災害　風水害・土砂災害

令和元年10月台風第19号による

避難指示(緊急)の発令　**大雨特別警報**の発表

（出典）日本テレビ

緊急放流後の相模川
（小田急線高架下）

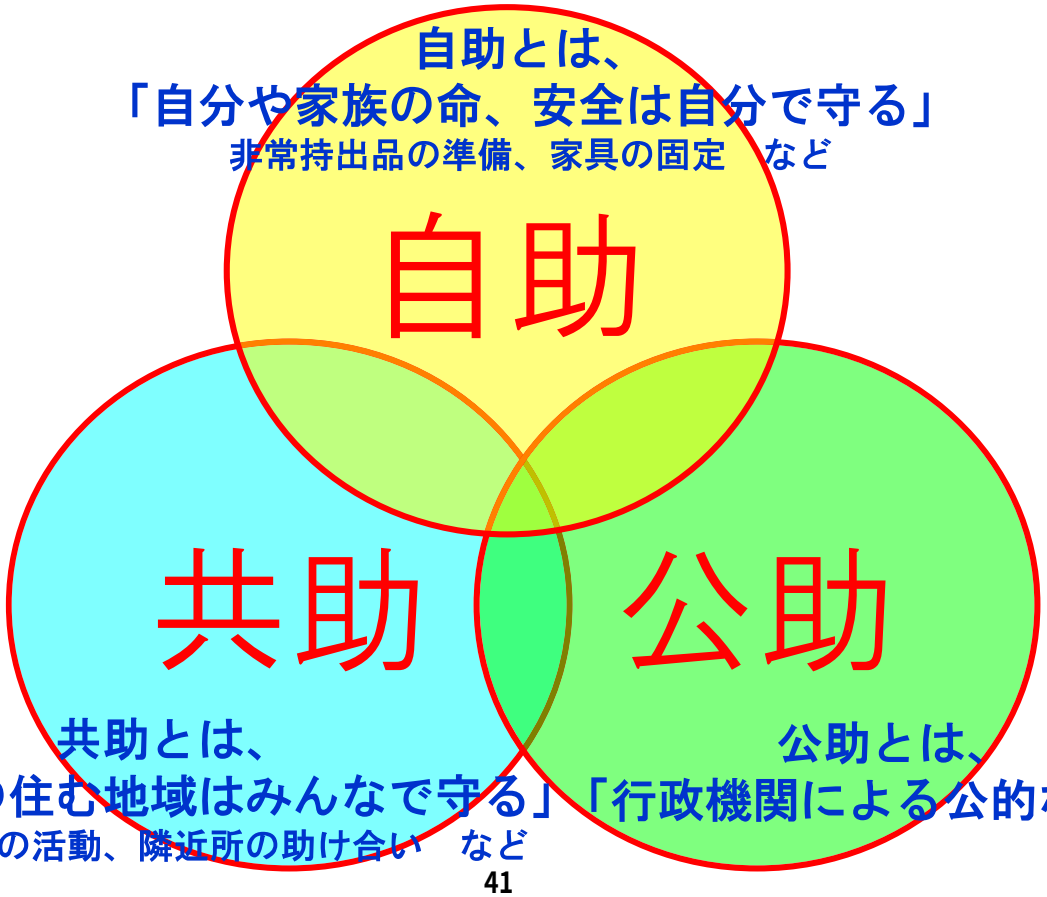
避難指示(緊急)

市内全域　72, 952世帯

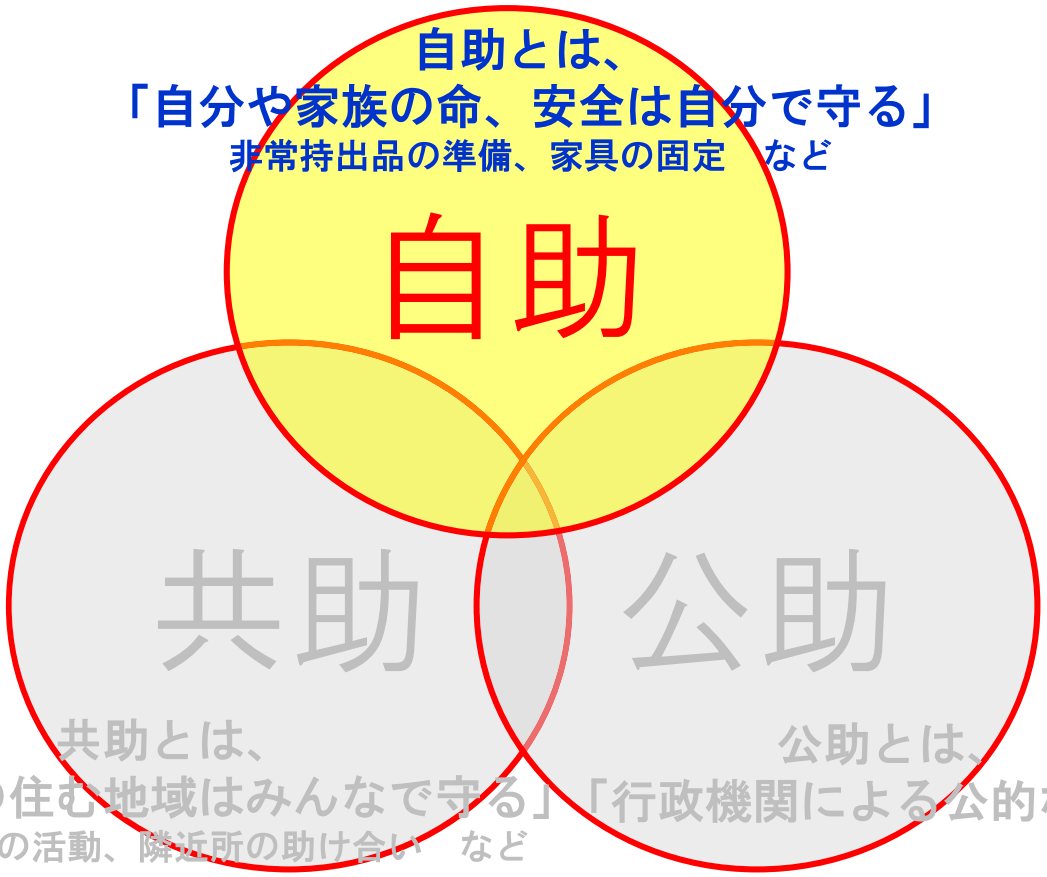
指定緊急避難場所　47　施設

避難者数　最大　**5, 709　人**

災害を乗り切る自助・共助・公助



災害を乗り切る自助・共助・公助



災害を乗り切る事前準備

自助

自分や家族の命、安全は自分で守ること

災害に対する知識を身に着ける

分散避難の検討

非常持ち出し品、備蓄品を整備する

厚木市の防災対策　避難情報の種類

厚木市からの災害情報伝達

市ホームページ
防災行政無線の放送内容を掲載

防災行政無線
（市内に281基）

ラジオ
FMヨコハマ（84.7MHz）、FMカオン（84.2MHz）で市からの緊急情報を放送

防災行政無線メールマガジン
防災行政無線の放送内容をメールで配信
（事前登録が必要）

緊急速報メール
緊急地震速報や避難情報を市内の携帯電話に一斉配信
（事前登録は**不要**）

TVKデータ放送
TVK(テレビ神奈川)のデータ放送で放送内容を表示

テレホンサービス
電話で最新の放送内容を聞くことができる
☎ **0180-994422**
※ 一般加入電話及び携帯電話から利用可。
※ サービスの御利用には通話料金がかかります。
●固定電話 3分8.8円、
●携帯電話 14秒10円）

厚木市の防災対策　防災情報の伝達

防災行政無線メールマガジン

防災行政無線の放送内容をメールで配信

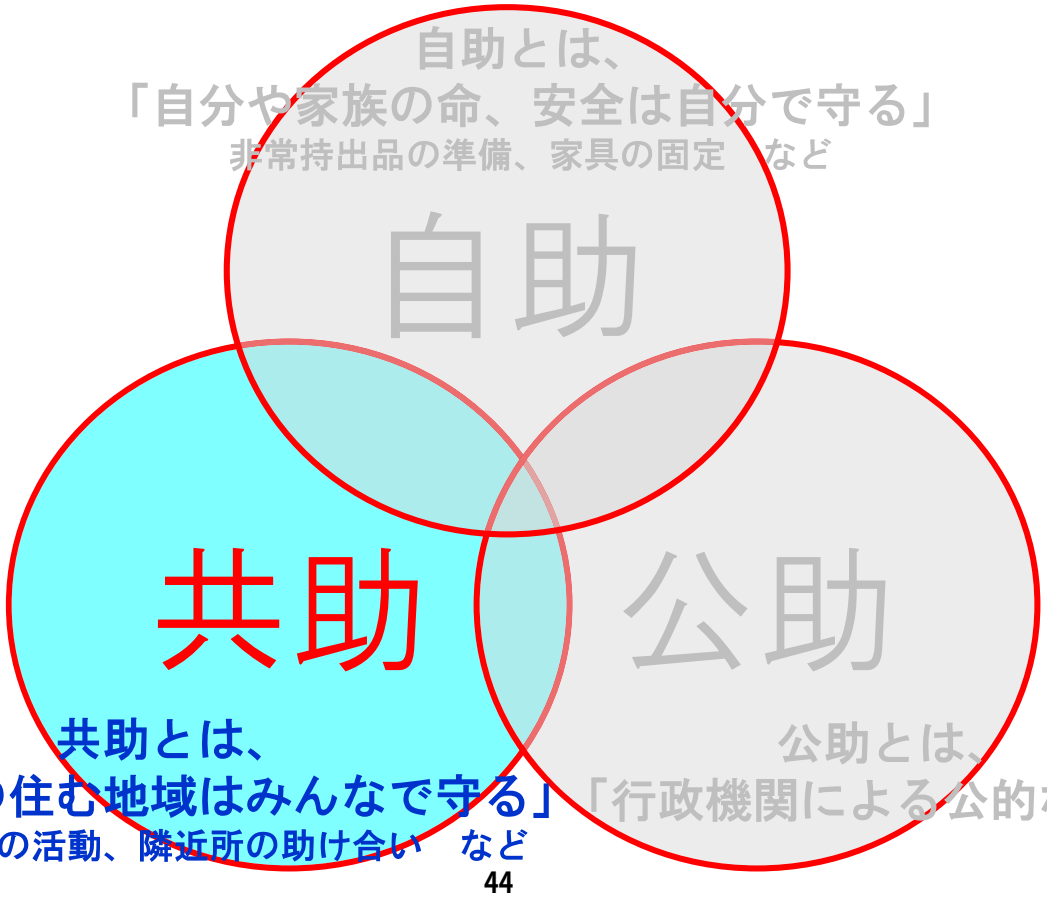
（事前登録が必要）

厚木市公式LINE

避難所の開設状況なども確認していただけます

積極的に最新の防災情報を入手し、早めの避難をこころがけましょう。

災害を乗り切る自助・共助・公助



自助とは、
「自分や家族の命、安全は自分で守る」
非常持出品の準備、家具の固定　など

共助とは、
「私たちの住む地域はみんなで守る」
自主防災隊の活動、隣近所の助け合い　など

公助とは、
「行政機関による公的な支援」

災害を乗り切る共助　～共助の考え方～

共助

私たちの住む地域は
みんなで守ること

被災者の生死を分けるのは災害発生から72時間

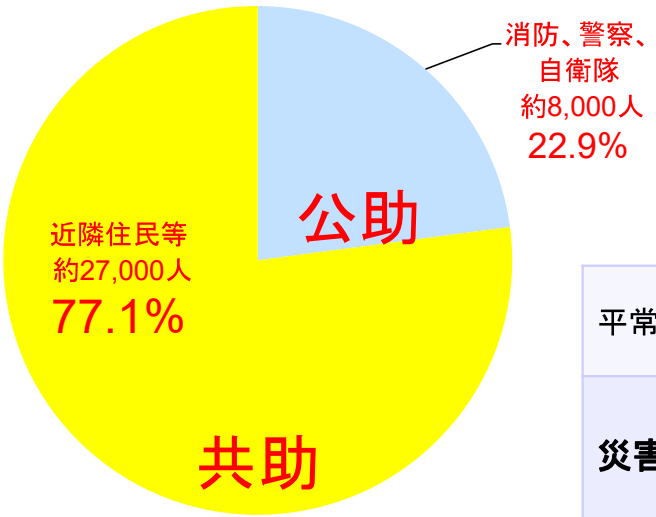
隣近所の助け合い、自主防災隊の活動など

市との連携による避難所運営など

災害を乗り切る共助　～頼りになるのは近所～

災害発生時には、自治体や消防・自衛隊などの「公助」が行われますが、「すぐに」、「すべての地域へ」の公的支援は届きません。

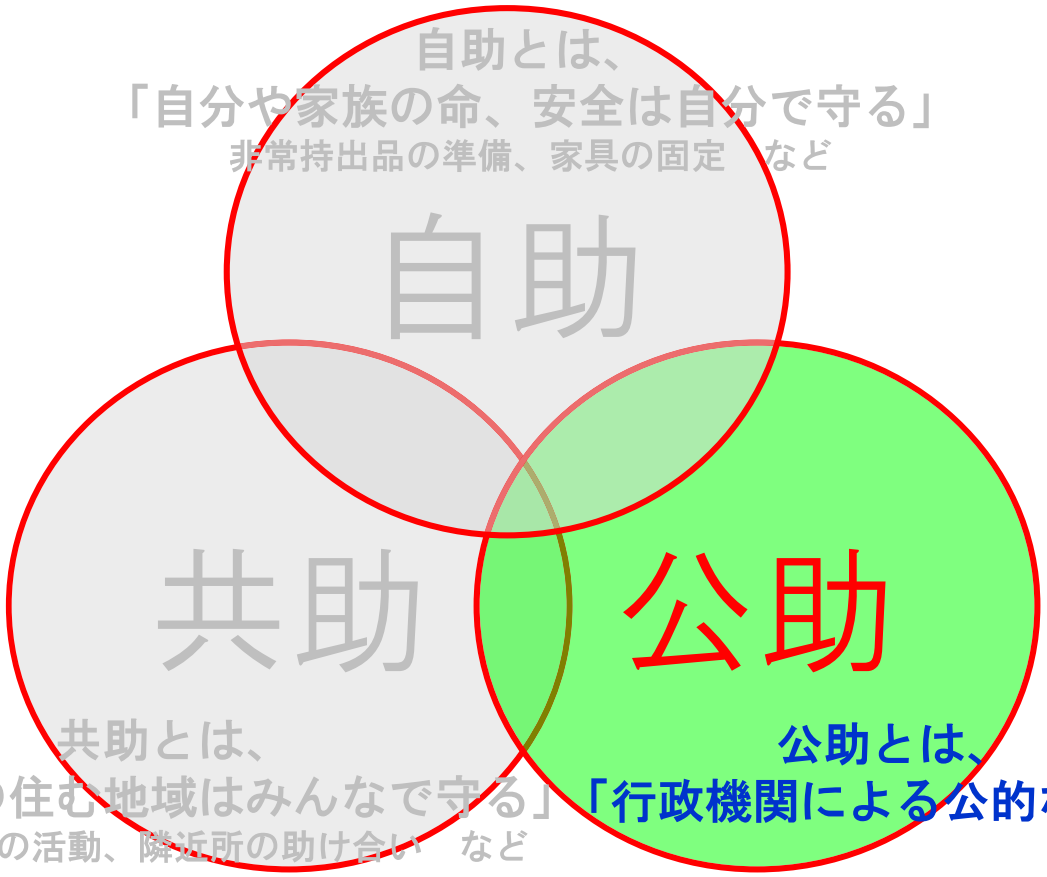
救助の主体と救出者数



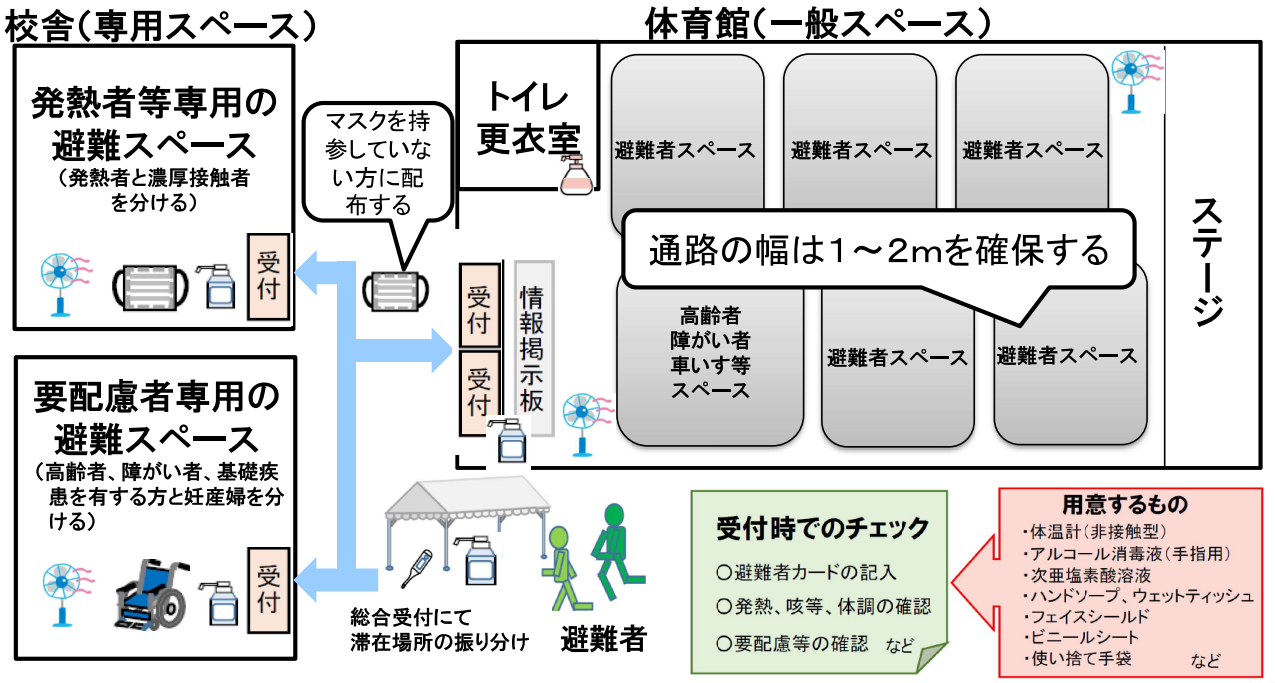
阪神淡路大震災で倒壊家屋の下から救出された全体の約8割の方々は、地域の近隣住民の方々により救出されました。

平常時	・普段からのご近所づきあい ・自治会等の防災訓練
災害時	**・初期消火活動、安否確認等** **・避難行動要支援者の避難支援** **・避難所運営、被害情報の情報伝達等**

災害を乗り切る自助・共助・公助



新型コロナウイルス感染症対応時の避難所レイアウト（例）

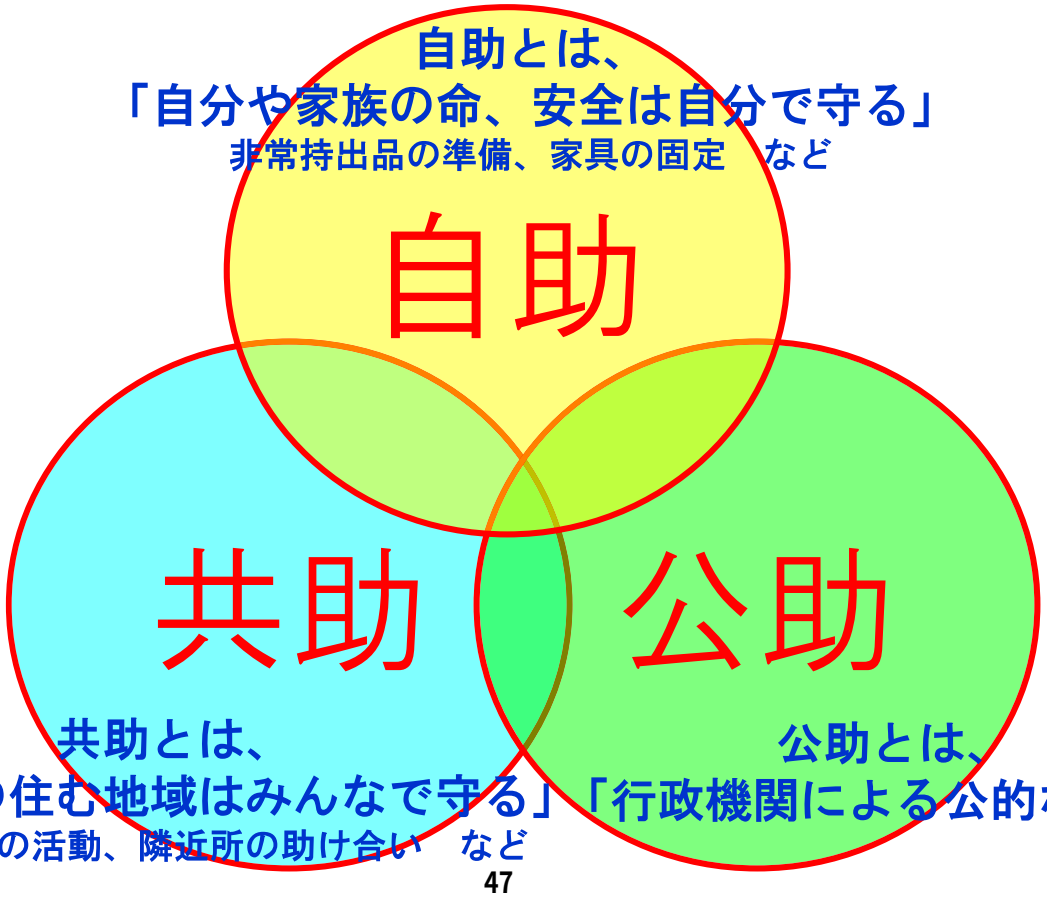


各避難所の規模や配置、制約が様々であることから、
出来る範囲で最大限実施できるようご協力をお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所物品

№	備蓄品	用途
1	非接触型体温計	受付用
2	マスク	受付用ほか
3	フェイスシールド	受付用ほか
4	使い捨て手袋	受付用ほか
5	ハンドマイク	受付・案内用
6	大型扇風機	避難スペース用
7	室内用テント	避難スペース用
8	防災敷きシート	避難スペース用
9	足踏み式ゴミ箱	感染拡大防止用
10	ごみ袋	感染拡大防止用
11	液体せっけん	手指衛生の確保
12	アルコール除菌液	手指衛生の確保
13	除菌シート	手指衛生の確保
14	ペーパータオル	手指衛生の確保
15	消毒用噴霧器	避難所消毒用
16	防護服	発熱者対応用

災害を乗り切る自助・共助・公助（再掲）

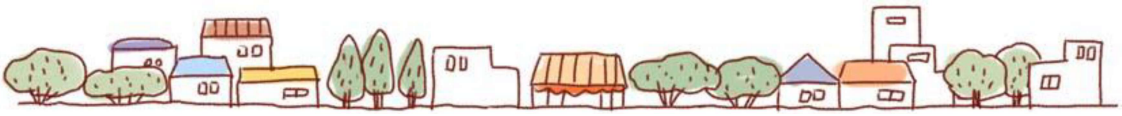


自助とは、
「自分や家族の命、安全は自分で守る」
非常持出品の準備、家具の固定　など

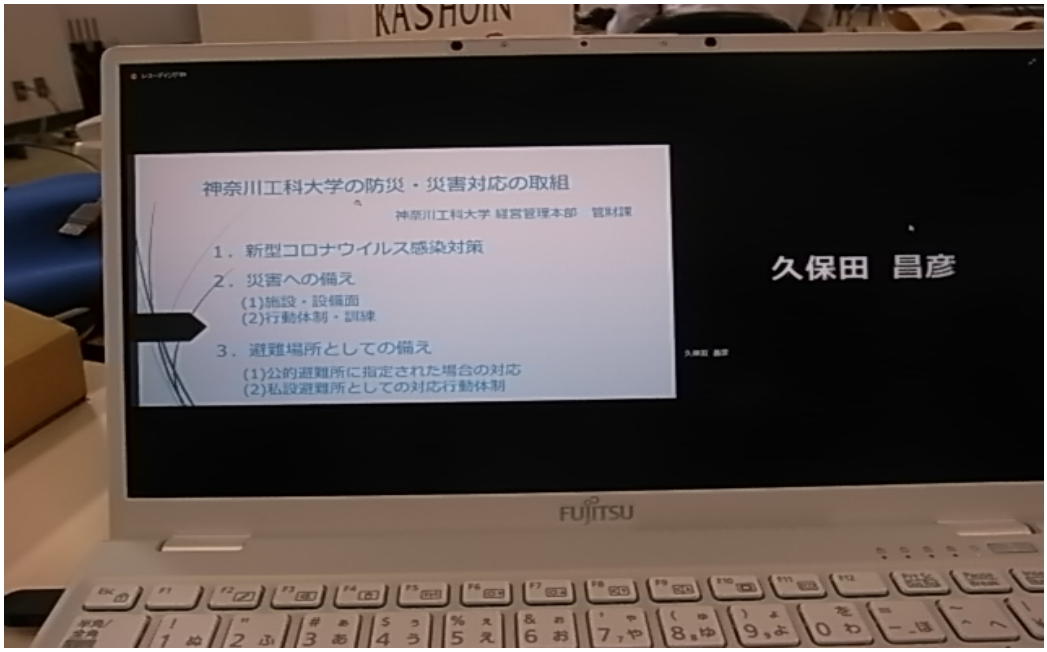
共助とは、
「私たちの住む地域はみんなで守る」
自主防災隊の活動、隣近所の助け合い　など

公助とは、
「行政機関による公的な支援」

ご静聴ありがとうございました。



Ⅲ―２



神奈川工科大学の防災・災害対応の取組

神奈川工科大学管財課

基礎講座終了後のアンケートからの一部抜粋

○　防災の研修ですと「地域との協力が大切」という結論にとどまりがちですが、経験談、生活習慣、技術と様々な観点から学べたことは非常に有意義でした。また、あらためて人工呼吸器を使用するような、電源を必要とする方の対策が重要かと思います。神奈川工科大さんのように自家発もあり、看護学部もある避難所はなかなかないので、その部分の活用を検討されるとありがたいなと感じました。

○　今回の講座で被災地の声や、神奈川工科大学がどんな対応をしているのか知ることができました。貴重なお話が聞けて嬉しく思います。
そこで一つ質問なのですが、熊本学園大学では災害発生時に多くの障がいをお持ちの方を受け入れたとおしゃっていました。もし同じような状況になった時、神奈川工科大学ではどのような対応をされますか？受け入れてくださいますか？
　回答：はい。（ｐ８６参照）

神奈川工科大学の防災・災害対応の取組

神奈川工科大学 経営管理本部　管財課

1．新型コロナウイルス感染対策

2．災害への備え

(1)施設・設備面
(2)行動体制・訓練

3．避難場所としての備え

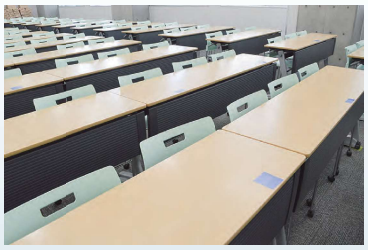
(1)公的避難所に指定された場合の対応
(2)私設避難所としての対応行動体制

1．神奈川工科大学　「新型コロナウイルス感染防止対策」の概要（抜粋）

<大学内入構（水際）対策>
「検温・体調確認ステーション」

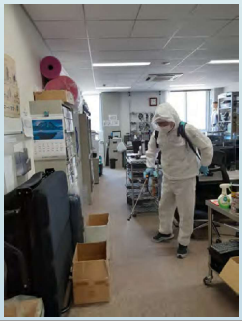
<3密（密閉・密集・密接）対策>

◆講義室には距離を空けた着席指定シール。食堂・図書館は席数を間引き

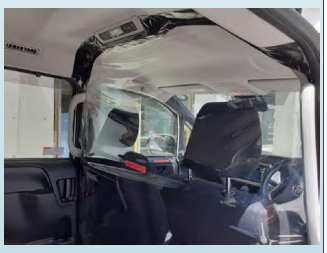


<発熱者等待機ドームテントの設置>

<速やかな消毒実施>



<発熱者輸送車両（同窓会からの寄贈）>



２．災害への備え

(1)施設・設備面

ａ）キャンパス再開発による耐震化の推進 ・・・　　現在97.3%。２階建て以上の学生利用エリアは100%

ｂ）学生サービス棟（管理棟）への自家発電機の設置 ・・・出力300ｋＶＡ（6600Ｖ）　全フロアへ給電

ｃ）各種非常時用品（食料・機材）の備蓄 ・・・食料12,000食、毛布類6,000枚、災害用使捨トイレ３,000セット他

ｄ）救護施設として転用可能な実習室　・・・・・　看護学科実習室：ベッド数40

ｅ）ＡＥＤの各建物への設置 ・・・　　設置総数２２台

ｆ）避難所としての利用を想定した講義室の仕様設定・・・約30教室

(2)行動体制・訓練

ａ）実効性のある災害対応体制へ変更 ・・・　　災害対策本部と自衛消防隊組織を連携させて再編成。

初動体制の強化・指揮命令系統の明確化・各教職員の災害時職務担当制による対応力の向上。

ｂ）全学避難訓練の実施・・・・毎年９月の後期オリエンテーション開催日に全学生を対象に講義室等から指定避難場所まで避難体験。学長・消防署・管財課から、命を守ること・非常時の対応等を伝達。

ｃ）災害対策本部設置訓練の実施・・・全学避難訓練に合わせて災害対策本部を設置し、災害発生時の学園・大学全体のコントロールをシミュレーション。

ｄ）教職員不在時（休日・深夜等）の地域住民の方々の避難受け入れマニュアルの運用

ｅ）課題・今後の予定・・・「教職員+学生」による災害時対応チームの結成、及び、対応トレーニング。

(大学公認サークルである「学生eco活動チーム」を核にした学生チーム編成を推進予定)

<全学避難訓練>

<2019年9月９日　台風15号　被害>

３．避難所としての備え

(1)公的避難所として開設時の対応

ａ）神奈川工科大学の現状

①厚木市により「指定緊急避難場所」及び「指定避難場所」に指定。

⇢　大規模地震災害時に避難所として活用予定（厚木市）

②厚木市と「災害時における施設使用及及びボランティアアに関する協定書」を締結。

③地元自治会の皆様の避難所運営委員会に参加・協力。

ｂ）神奈川工科大学公設避難所の開設　＝　大規模地震災害時に厚木市が必要と判断した場合に開設

①厚木市との協定に記された提供施設：体育館・グラウンド・駐車場

②厚木市の避難所運営に協力する。

(2)私設避難所としての対応

a）神奈川工科大学の方針（2018年理事会承認）

地域住民の皆様を受け入れ心と体の安らぎの場を提供する。

①自宅の安全確認が取れるまでのよりどころ

②建物棄損による住まいの消失に対する一次対応

b）準備状況・受入条件

①最大避難者数想定70名　　（現在は、新型コロナ感染防止対策上　最大人数を40名に設定変更中）
避難場所は講義棟１階の大教室（床はカーペット敷き、机の移動が可能）を配当。
ペット同伴用避難場所として同１階の中教室（床は木板張り、机の移動が可能）を配当。

②市民の方専用で、約1000食の非常食料を備蓄。照明器具・簡易トイレ等も備蓄。

③教職員不在時（休日・深夜等）の地域住民の方々の避難受け入れマニュアルに基づき、守衛室にて受け入れ対応を行い、担当者が緊急出勤にて以降の対応を行う。

④避難される市民の皆様へ了承いただく事項＝「厚木市の公設避難所ではないこと。厚木市と同じサービスの提供とはならないこと。」「避難場所として大学のお願い・指示に従っていただくこと」

２０１９年１０月１２日<台風１９号>
実際の避難者受け入れ対応の経緯

初めて本学で私設一時避難場所を開設。（利用者：市民１６名、本学学生５名）

08：30に２名（若い夫婦）来学。Ｋ３号館３１０２講義室を避難所設営。
11：30に１名（若い女性）
13：20　ペット（小型犬）同伴のご夫婦が避難。（３１０１講義室をペット同伴避難室として使用することとし、ブルーシートと段ボールを提供。）
15：00　厚木市危機管理課へ電話し、市の設置した避難所でのサービス内容を確認：「水も食料も市では提供せず、各自持参してもらう。あくまで一時的な安全な場所の提供」とのこと。
15：20　大人２名子供３名の家族および、大人２名の夫婦が本学へ避難。
16：10　大人１名（女性）が本学へ避難。
16：45　夫婦と高齢婦人の家族（３名）が本学へ避難。
16：46　本学学生５名が避難。（Ｋ３号館３階３３０３講義室を学生用に設営）
（別に、本学教員がご家族とともに自分の研究室に避難。）
22：30　風雨が収まり、５名の学生は２３時で全員帰宅。
市民の皆様は、川沿いの方が多かったため全員が宿泊。翌13日の７：50に全員帰宅。

補足事項
①市民の皆様には、「厚木市の公設避難所と同様の対応ではない旨」を説明した上で利用いただいた。
②防災備蓄品の、飲み水、クッキー、ようかん、毛布、ブランケットを提供。
③避難者名簿に記入いただき避難者名を記録。

●現在運用している対応手順

本学学生・教職員や近隣住民が本学への一時避難を希望された場合には、守衛室から管財課職員へ連絡。同時に（職員の到着を待たずに）守衛員にて次の対応をとる。

◆受入れ場所：Ｋ３号館　１階　3102講義室（机を寄せて寝ころびが可能）
　避難状況（人数等）によって、その他の講義室も順次活用。

◆手順

①Ｋ３号館１階 ３１０２講義室へ案内。トイレの場所と停電時の出口（植物工場前の扉）を伝える。

②Ｋ３号館西側の自動ドアを稼働。停電時は、植物工場側の手開きの扉の鍵を開ける。

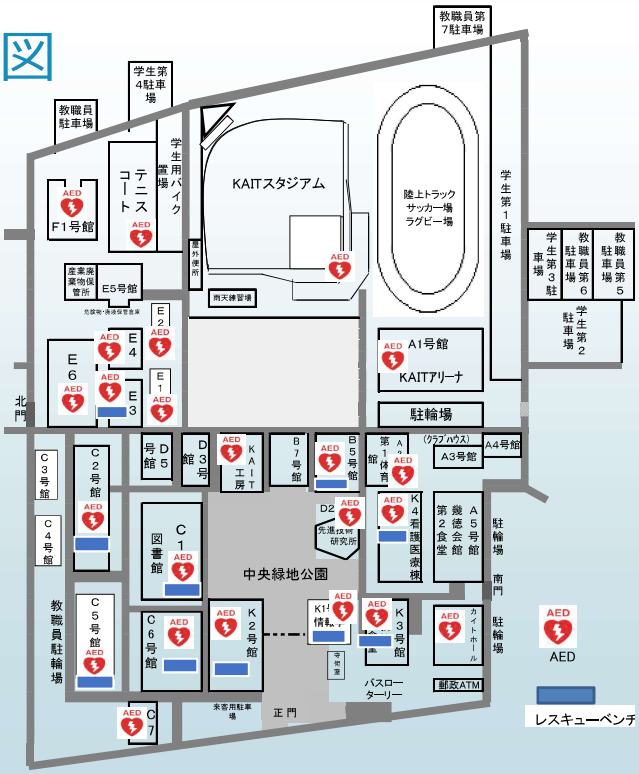
③電池式照明（ランタンと懐中電灯）を講義室内に配置。

④避難された方に、Ｋ３地下の倉庫の奥の壁側にある、災害時用毛布（一人２枚）、災害時用水（一人１リットル程度）、食べ物（バランスクッキー2袋/人）を配付。

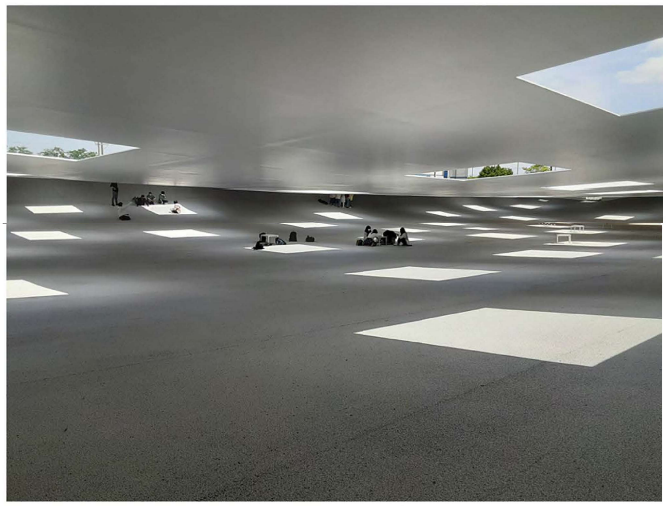
⑤トイレについて説明：Ｋ３号館のトイレ（個室）は、貯水式で、停電してもレバーを回せば１回分水を流すことが可能。万一、水が流れなくとも利用してよいが便器のふたは閉めてほしいことを伝える。

以降は職員到着後に対応。

AED配置図



神奈川工科大学の風景

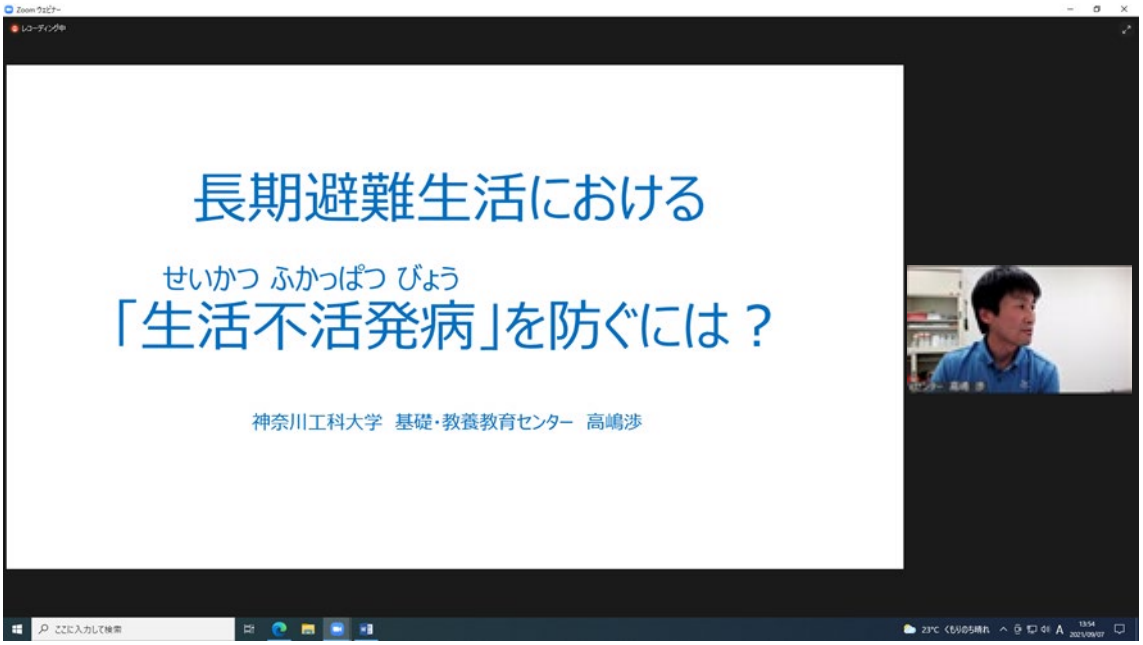


お聴きいただき、ありがとうございました。

神奈川工科大学 経営管理本部　管財課

神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

Ⅲ―３



長期避難生活における「生活不活発病」を防ぐには？

神奈川工科大学基礎教養・教育センター

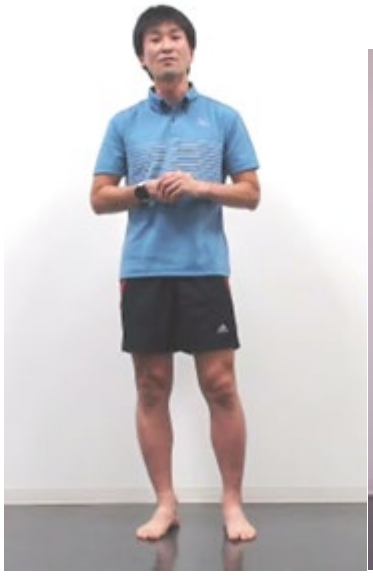
高島渉　准　教授

基礎講座終了後のアンケートからの一部抜粋

○　高嶋先生・塩川先生の講座を主に視聴しましたが、お二人とも地域の方々向けにとてもわかりやすい内容でした。高嶋先生の画像を視て一緒に運動できてよかったです。

○　高嶋先生のご講演は、具体的な運動の方法がわかってよかったです。

○　生活不活発病という病気を初めて聴き、避難生活でほとんど動けないことで身体に悪影響を及ぼしてしまうことを初めて知った。また、運動不足を伴う生活習慣病などがあるとさらに危険な状態になりやすいかもしれないため、避難生活を強いられたとき上手に避難生活を送る方法を自分でもう少し考える必要があるのではないかと思いました。



長期避難生活における

せいかつ ふかっぱつ びょう
「生活不活発病」を防ぐには？

神奈川工科大学　基礎・教養教育センター　高嶋渉

本日の内容

・生活不活発病とは

→「不活発状態」が及ぼす負の影響

慢性的：筋力・骨量の減少，メタボのきっかけ＆悪化，心の状態悪化
急性的：エコノミークラス症候群

・身体も災害に「備えて準備」する

→普段から行うことが重要～避難生活でも可能？

～運動トレーニング例を紹介～

「生活不活発病」

体を「動かさなく」なる…→「脱トレーニング」状態に

からだ

筋力や関節可動域の減少

→徐々に「動けなく」なる，持病も悪化

こころ

だんだん気分が沈んでくる

→「こころの健康保持」ができなくなる

厚生労働省では、生活不活発病が起こりやすい地震や台風・大雨・洪水などによる自然災害災害時に、生活不活発病チェックリストの利用による早期発見・早期対応を推奨しています

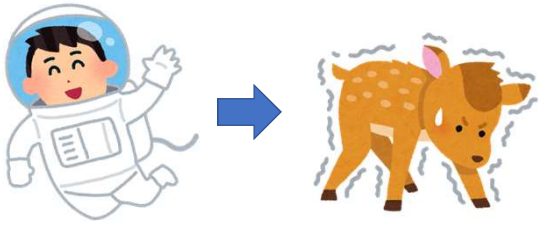
厚生労働省，東日本大震災関連情報「避難所生活を過ごされる方々の健康を守るためのガイドライン」より
https://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/kojin.html

災害時でなくとも「生活不活発病」におちいるケース（原因）は増えています

コロナ，猛暑，長雨，受験，人間関係．．．

・慢性的な影響→　<u>可逆性の原理</u>（使わなければ機能は低下）

アスリート：トレーニングを中止→パフォーマンス低下
一般の人：日常生活での身体活動量低下→将来的に日常生活に支障



宇宙空間での滞在は究極の**<u>脱トレーニング</u>**」

宇宙飛行士は宇宙に行く前も，宇宙でも厳しい体力トレーニングを行う

しかし，数か月の宇宙滞在で歩行できないほど筋力が低下する

被災時の運動不足に関する悪影響（調査研究例）

・東日本大震災仮設住宅（釜石市）居住の被災者の身体活動量（歩数）は，
　岩手県や日本の（通常時の）平均値より少ない　（村上ら，2013）

皆が不活動状態になるわけではなく，避難所の状況（広さやつくり）や，
家族・集団の中での立場によって大きく身体活動量が異なる　→**「二極化」？**

・仮設住宅（相馬市）居住の被災者は震災前と比較して，
体重・BMI・腹囲の増加，HbA1cの増加，HDL-Cの減少がみられた　（Tsubokura et al.2013）

・岩手・宮城県の震災被災者は，睡眠障害や心理的苦痛が全国平均よりも高い
（林ら，2012）

生活不活発病チェック表

1．屋外歩行
災害前　□遠くへも一人で歩いていた　□近くなら一人で歩いていた
□誰かと一緒であれば歩いていた　□ほとんど外は歩いていなかった
現　在　□遠くへも一人で歩いている　□近くなら一人で歩いている
□誰かと一緒であれば歩いている　□ほとんど外は歩いていない

2．自宅内歩行
災害前　□一人で歩いていた　□伝い歩きもしていた　□誰かと一緒であれば歩いていた
□ほとんど歩いていなかった
現　在　□一人で歩いている　□伝い歩きもしている　□誰かと一緒であれば歩いている
□ほとんど歩いていない

3．その他の生活行為（食事、入浴、洗面、トイレなど）
災害前　□不自由はなかった　□不自由があった（具体的な行為：
現　在　□災害前と同じ　□災害前よりも不自由になった（具体的な行為：

4．車いす
災害前　□使用していなかった　□主に自分で操作　□主に他人が操作
現　在　□使用していない　□主に自分で操作　□主に他人が操作

5．歩行補助具・装具の使用
災害前　□使用していなかった　□屋外で使用　□屋内で使用　［種類：　］
現　在　□使用していない　□屋外で使用　□屋内で使用　［種類：　］

6．外出頻度（30 分以上の外出）
災害前　□ほぼ毎日　□週 3 回以上　□週 1 回以上　□月 1 回以上　□ほとんどしていなかった
現　在　□ほぼ毎日　□週 3 回以上　□週 1 回以上　□月 1 回以上　□ほとんどしていない

7．家事
災害前　□全部していた　□一部していた　□ほとんどしていなかった
現　在　□全部している　□一部している　□ほとんどしていない

8．家事以外の家の中での役割
災害前　□全部していた　□一部していた　□ほとんどしていなかった
現　在　□全部している　□一部している　□ほとんどしていない

9．日中活動性
災害前　□よく動いていた　□座っていることが多かった　□時々横になっていた
□ほとんど横になっていた
現　在　□よく動いている　□座っていることが多い　□時々横になっている
□ほとんど横になっている

厚生労働省HP
「一連の熊本県熊本地方を震源とする地震による
避難生活に伴う心身の機能の低下の予防について」
掲載の生活不活発病に関するチェック表

http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000122331.pdf

“慢性的な”生活不活発病を防ぐための考え方

災害が起きる前に…

グッズだけでなく
身体面からも災害に
備えましょう

〇普段から体力維持向上のための運動について理解し，実践しておく

→ある程度体力低下してもまだ余裕がある（**貯金**のイメージ）→ 再開すれば取り戻せる

避難生活が長期化しそうなら…

〇普段から行っている運動の中から，可能なものを選んでアレンジしながら行う

普段やっていないことが，避難所でできるわけがない…
→しかし身近な人と一緒に行えばできるかも**（若い人にはインストラクター的な役割を期待）**

〇身体活動量を客観的に把握する → 歩数計アプリの活用，運動の記録を残すなど

〇身体活動を妨げない環境整備 → 整理整頓して通路をあける，何か「役割」を持つ，など

・急性的な影響 → いわゆるエコノミークラス症候群

エコノミークラス症候群の症状

・静脈内に血栓ができる→深部静脈血栓症
（脚のむくみや痛みとして現れる）
→ちぎれた血栓が血流に乗って肺に達し肺動脈をふさぐ→**肺血栓塞栓症**
（肺血流の低下→ 息切れ、胸や背中の痛みとして現れる）
高血圧，糖尿病，高脂血症などの症状がある人は発症しやすい，喫煙も悪影響

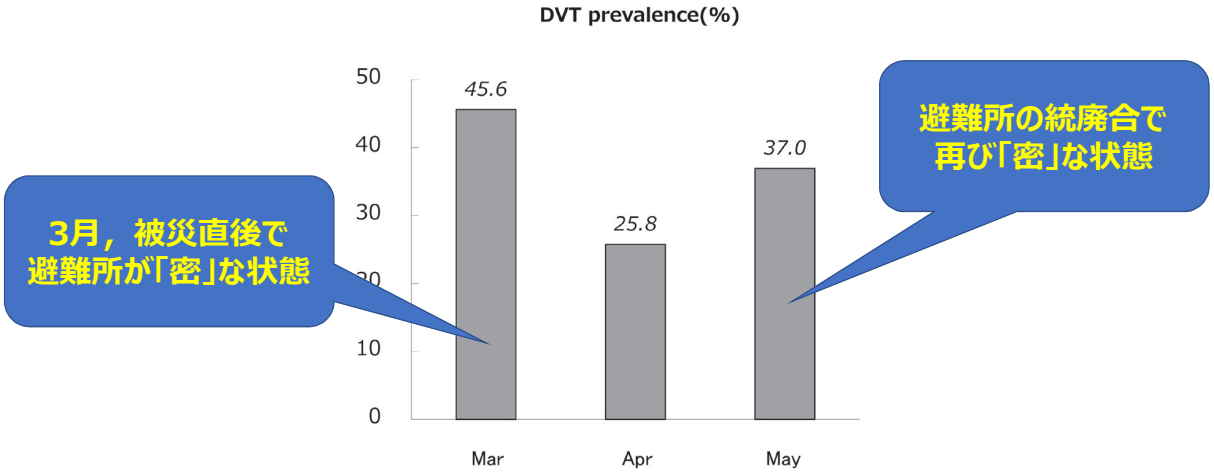
発症要因

・不活動（特に同じ姿勢での座位）→ 血流が滞る
・水分摂取の不足 → 脱水 → 血液濃縮

特に避難所では・・・飲料水不足だけではなく，嘔吐・下痢症に伴う脱水も起こり得る
不潔なトイレを忌避して飲水を控える傾向があることも

日本呼吸器学会HP「エコノミークラス症候群（肺血栓塞栓症）に関するQ&A」に基づいて作成
https://www.jrs.or.jp/modules/citizen/index.php?content_id=152#a05

・急性的な影響　→エコノミークラス症候群



2011年3月～5月の深部静脈血栓症（DVT）発症率の推移（石巻市，東松島市の避難所）

植田，静脈学 2012

避難所の「密」は，不活動をさらに深刻化し，エコノミークラス症候群の発症要因に

“急性的な”生活不活発病を防ぐための考え方

災害が起きる前に…

普段から，特に有酸素的な運動（ウォーキング，ランニング，水泳，自転車など）を実践し，高血圧，糖尿病，高脂血症になることを防ぐ

避難の当日から・・・

定期的に立ち上がる
＆下肢（特に下腿）をリズミカルに動かす
（ストレッチングも効果的）

このアプリは座りすぎを防止するために、３０分毎に通知を行います。

「座りすぎ防止アプリ」
などの活用もおすすめ

生活不活発病を防ぐための
運動面での工夫を時系列でまとめると…

普段から身体も備える

総合的に体力を高めておく

（メタボ予防も含む）

自分や周りの人を守る

自力でスムーズな避難

エコノミー症候群に注意

時々立ち上がる＆足を動かす

（十分な水分摂取も）

体力低下をできるだけ抑える

筋トレ＆ストレッチング

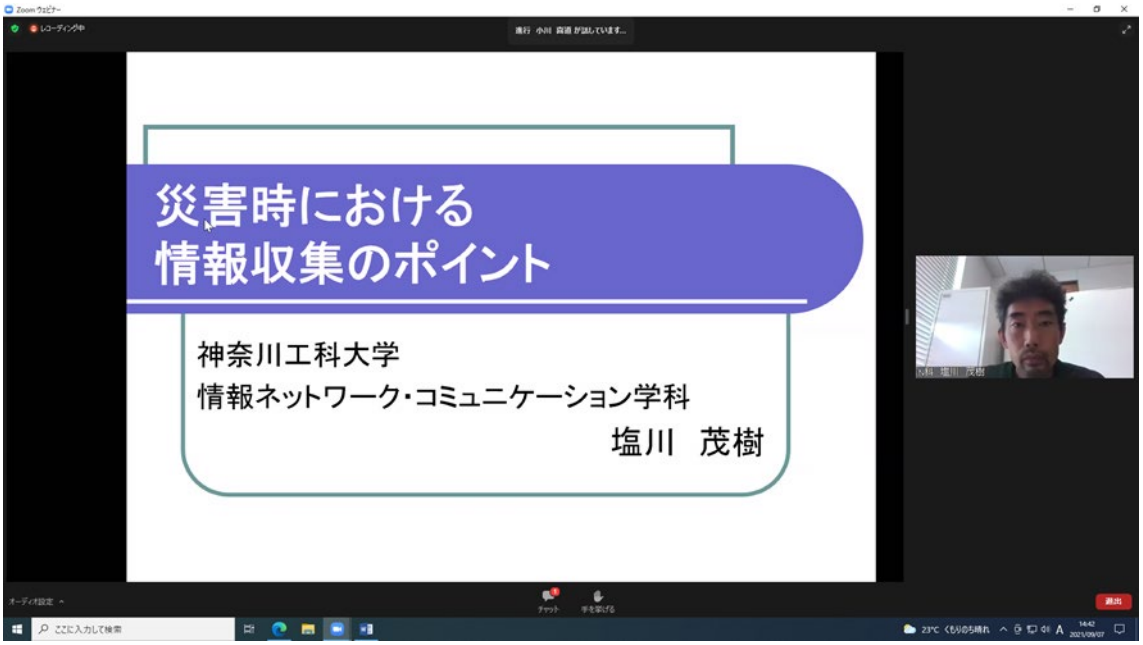
（可能なら有酸素運動も）

避難所全体での取り組みや
雰囲気づくりが必要…

普段の生活 → **災害発生** → **避難生活始まってすぐ** → **避難生活が続くなら（1週間以上？）**

避難所生活では，運動・トレーニング実施の優先順位が低くなりがちかもしれませんが…
「避難生活のその先」のこともイメージしてみてください

Ⅲ―4



災害時における情報収集のポイント
神奈川工科大学情報ネットワーク・コミュニケーション学科
塩川茂樹　教授

基礎講座終了後のアンケートからの一部抜粋

○　大規模災害が起きた時には、携帯電話の基地局がダウンして、交通網が混乱することが地元の大震災から経験したので、ボランティア活動を行うにも実際は訓練通りにいかないと考えられるので、本学で災害時に初期活動として、連絡手段を用いないで、倉庫に学生が集合し、避難所を設営できるように今後話し合いを行って、備えが完璧になることを願っています。

○　災害時の情報収集を行う上での注意点や、災害が起きる前に収集できる情報についてまとめる必要があると思いました。

災害時における情報収集のポイント

神奈川工科大学
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
塩川　茂樹

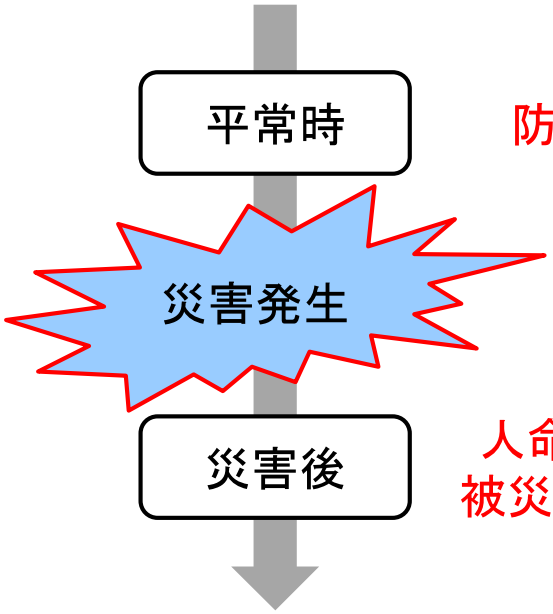
はじめに

- いつ・どこで起こってもおかしくない災害時において「情報」の価値は極めて高いです
- 平常時には収集が容易であった情報も災害発生後には収集が困難となります
- 本講座では災害時における情報収集のポイントについて解説します

講義の内容

- 災害時の情報の重要性，情報収集手段
- 平常時に必要な情報収集のポイント
- 災害後に必要な情報収集のポイント

災害時の情報の重要性



防災

災害予測
災害時の行動指針
（避難等） など

人命救助
被災者ケア

避難（場所・手段）
被災状況，安否
2次災害予測
被災者の心身状態
避難所状況
必要物資 など

災害による被害を 最小限に留めるためには
最新かつ正確な情報の収集が不可欠

災害時の情報収集手段

- テレビ，ラジオ，新聞
- 各種無線（防災行政無線　等）
- 電話，FAX
- インターネット

平常時に必要な情報収集

ポイント

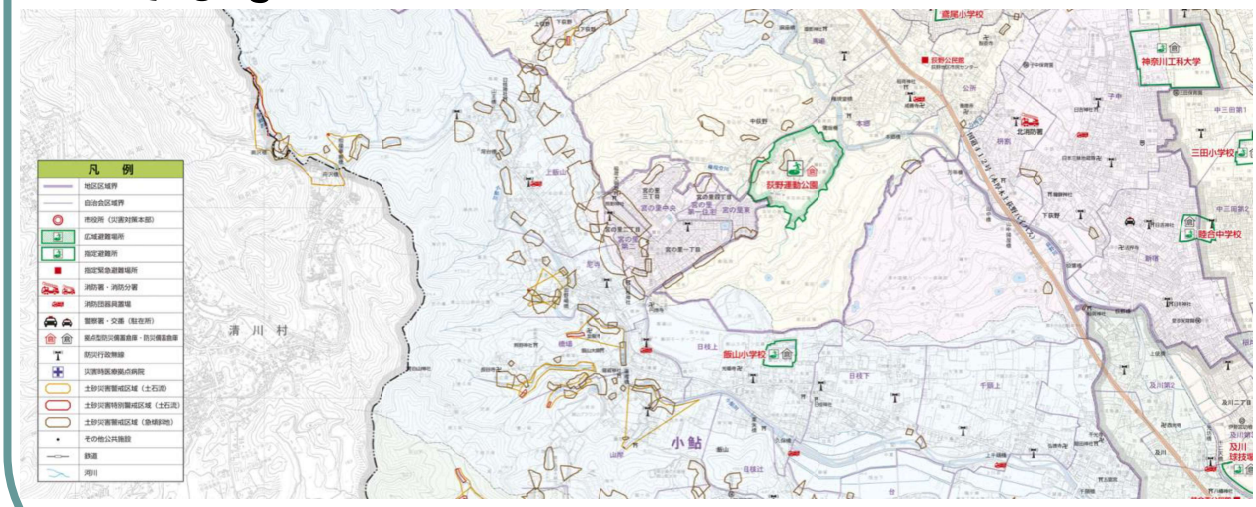
- 防災とは「災害」を防ぐということだけではなく「被災」も防ぐということ
- 発生率0%とは絶対に発生しないということではない
- 情報の「慣れ」に注意

平常時に必要な情報収集

- 防災とは「災害」を防ぐということだけではなく「被災」も防ぐということ
  - 災害発生時にどうするべきかという情報
    - 避難方法，安否確認手段，必要物資
  - 一般的な知識だけではなく居住地に特化した情報も重要
    - ハザードマップ，近隣住民情報
  - 家族間で情報の共有を図る

平常時に必要な情報収集

- 発生率0%とは絶対に発生しないということではない



厚木市土砂災害ハザードマップより

平常時に必要な情報収集

- 情報の「慣れ」に注意
  - 慣れとは生体に同じ刺激が繰り返し持続して与えられるとき，刺激に対する反応が減少し消失する過程
  - 注意報・警報や避難指示等の緊急情報が繰り返し発令されるも実害を被らなかったという状況が続くと緊急情報に「慣れ」る恐れがある

災害後に必要な情報収集

ポイント

- 防災時の収集情報をフル活用
- インターネットの有効性
- 位置情報利用は一長一短
- フェイクニュースに注意

災害後に必要な情報収集

- 防災時の収集情報をフル活用
  - 状況に応じた避難行動
    - 避難所へ移動するべきか
    - より安全な避難経路

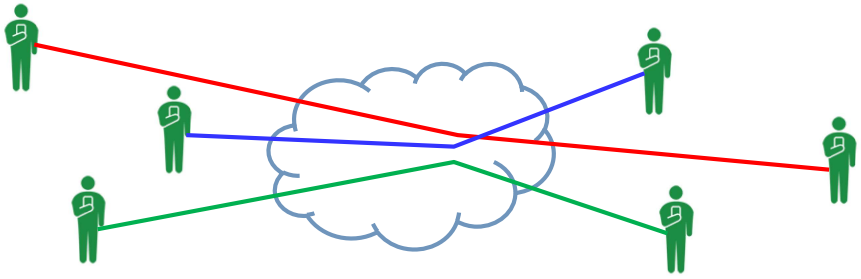
  - 周囲に救助を必要とする人がいないか
    - 高齢者，障がい者
    - 幼稚園，保育園

災害後に必要な情報収集

- インターネットの有効性
  - 情報収集だけではなく情報の発信も可能
    - 被災状況，安否情報
    - 避難所の必要物資
  - コネクションレス型通信
    - 過去の震災では電話よりメールのほうが通じやすかった
  - 通信インフラが崩壊した地域でも構築可能なネットワーク
    - 無線システムを活用

災害後に必要な情報収集

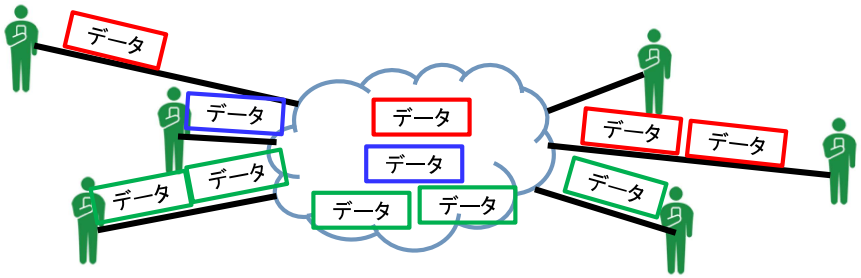
- コネクション型通信とコネクションレス型通信の違い
  - コネクション型



通信をする機器同士を常に接続状態に保つ必要があり通信希望者が多いと接続を保てなくなるため通信自体ができなくなる

災害後に必要な情報収集

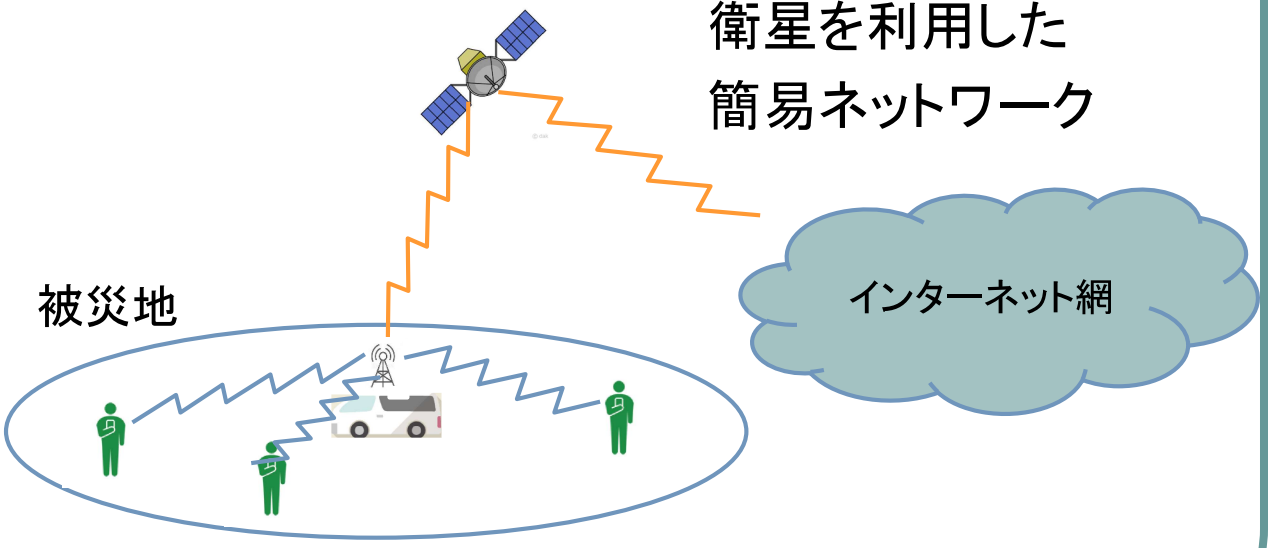
- コネクション型通信とコネクションレス型通信の違い
  - コネクションレス型



通信をする機器同士を接続状態に保つ必要がなく通信希望者が多くてもデータの混雑は生じるが届く可能性は高い

災害後に必要な情報収集

- 2016年熊本地震における実用例



携帯端末の電力さえあれば
インターネット接続が可能

災害後に必要な情報収集

- 位置情報利用は一長一短
  - スマホの位置情報利用は災害時に役立つ
    - スマホ所持者の位置特定
    - 避難先に特化した情報収集
    - プライバシー保護との兼ね合いは必要
  - 位置情報取得に必要なGPSの利用には多くの電力を必要とする
    - 平常時と緊急時で位置情報の利用範囲を変更
    - モバイルバッテリーの準備

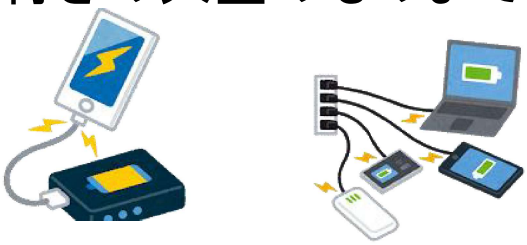
災害後に必要な情報収集

- フェイクニュース（偽情報）に注意
  - インターネットや電話など個人による情報発信が可能な媒体で得た情報は正確とは限らない
    - 悪意のあるデマ情報
    - 悪意のない誤情報
    - SNSでの情報収集には十分な注意が必要
    - 災害とは無関係の被害を受ける恐れあり

  - テレビ，ラジオ，新聞のほうが情報の正確性でいえば適した媒体

その他のポイント

- 災害時の情報入手手段を準備
  - 携帯電話，ラジオ
  - インターネットサイト，伝言ダイヤルサービス
- モバイルバッテリーは必需品
  - スマホ充電用途のコンパクトサイズから電源コンセント付きの大型のものまで



災害時の情報収集のポイントまとめ

- 防災とは「災害」を防ぐということだけではなく「被災」も防ぐということ
- 発生率0%とは絶対に発生しないということではない
- 情報の「慣れ」に注意
- 防災時の収集情報をフル活用
- インターネットの有効性
- 位置情報利用は一長一短
- フェイクニュースに注意

おわりに

- いつ・どこで起こってもおかしくない災害時において「情報」の価値は極めて高いです
- 災害時の被害を抑えるためには平常時の段階から情報取集をしっかりしておくことが大事です
- ただし誤った情報により被害が拡大したり別な被害にあわないような注意も必要です

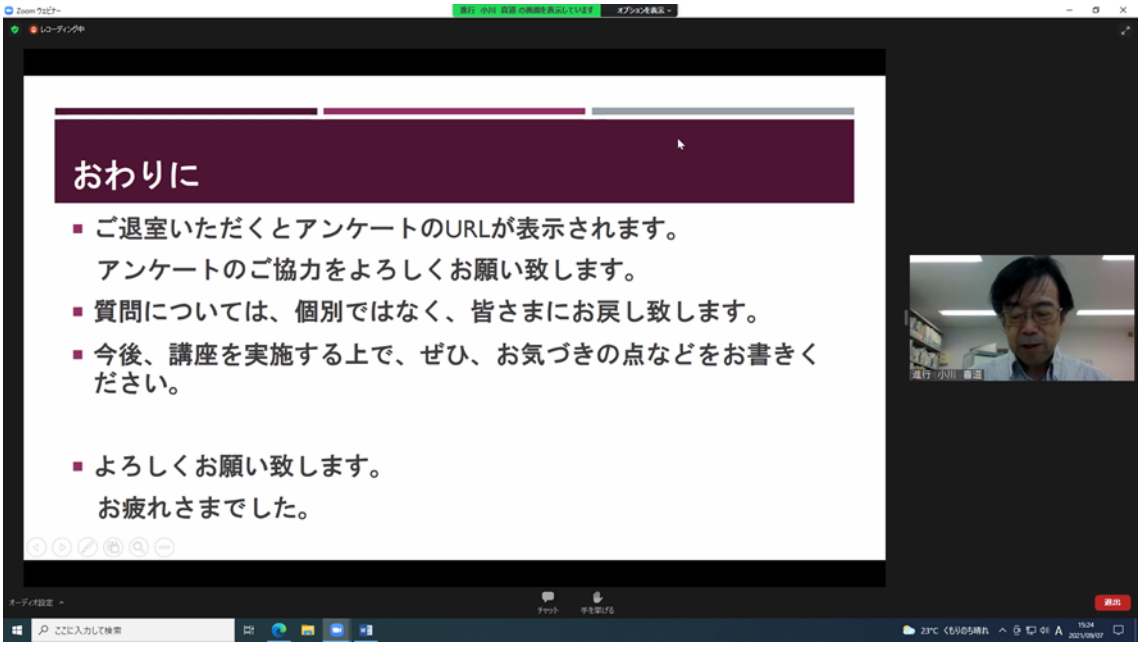
参考資料・サイト

- 総務省　情報通信白書
- 内閣府　防災白書
- 厚木市防災サイト
- 情報通信研究機構サイト
- マスタリングTCP/IP　（オーム社）

Ⅳ　参加者

所属	人数（人）	摘要
大学関係	81	神奈川工科大学　東海大学　慶応義塾大学　湘北短期大学　山梨県立大学　関東学院大学
行政関係	4	厚木市役所　伊勢原市役所等
防災関係団体	5	NPO 法人神奈川 311 ネットワーク　あいかわ町災害ボランティアネットワーク　災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ（準備会議）等
厚木市商工会議所	4	
介護・福祉関係	12	地域包括支援センター　障がい者基幹相談センター　訪問看護事業所　居宅介護事業所等
その他団体	3	神奈川新聞報道部　あつぎ環境市民の会　横浜重心グループ～ぱざぱネット～等
個人（所属不明）	22	
合計	131	

Ⅴ　アンケート



「防災・災害ケア基礎講座」終了後に上記アンケートにご協力いただきました。個人が特定できるような情報は削除・加工等の配慮をさせていただきました。
68 人（アンケート回答数）／131 人（参加者）　回収率 52%

○　自分の住んでいる地域のことだけでなく、熊本の、熊本地震のときの実際の経験などを通して避難所の問題点であったりを詳しく知り、実際、今解決策として考えられ、実行されているものについて学べたし、自分のかよう大学の災害対策について詳しく知れたのでよかったです。

○　内容自体はとても良いものだと思いますが、円滑な進行を行うために一度 PP の表示の仕方や内容の確認などを含めたリハーサルを行った方がよいのではないかと感じました。

○　今回のセミナーはたくさんのことを学ぶことが出来ました。私は出身が岩手県なので午前の花田先生の講義を聞いていろいろ感じるものがありました。災害が起きたとき、マニュアル通りにいかないのは本当にその通りだと

思います。優先度の高いものから進めていくこと、柔軟な対応を心がけることが重要であると感じました。厚木市の防災対策を改めて知ることで災害がおきたとき自分の身を守るために必要なことが理解できました。ハザードマップを改めて確認しようと思います。また、自分が通っている大学の取り組みを知るいい機会となりました。熊本地震の話を聞いて、もし神奈川県で災害がおきたとき大学が避難所になると思うのでお手伝いをしたいと思いました。東日本大震災の経験があるからこそ少しはお役に立てたらなと思いました。長期の避難生活になった場合、体に現れる変化についても学ぶことが出来ました。災害がおきたときだけでなく、日ごろからトレーニングなどを行うことが大切と学んだのでこれから生かしていこうと思います。災害時の情報収集についてのおはなしはとても興味深いものでした。実際東日本大震災の時、情報が全然入ってこなくて大変だったことを思い出しました。どの機器を使った方がいいのかなどその時の状況に合わせて使いこなすことが重要だと思いました。最後に本日ご講演してくださった皆様、本当にありがとうございました。

○　日本は諸外国と比べ地震などの災害が多いことから、避難訓練の実施により実際に災害が起きたときには訓練通りに動くことができると聞いたことがある。今回のセミナーを受け、災害により避難した際の状況や実際を知ることが出来て、為になった。

○　Zoom による開催で参加しやすかった面もあります。来年度以降はどうなるか分かりませんが、**ワークショップのようなことも行うのでしょうか？**学生の参加がどのくらいあったのでしょうか。参加が増えると良いですね。

質問１：ワークショップのようなことも行うのでしょうか？
回答１：神奈川工科大学地域連携災害ケア研究センター
今年度も企画段階ではワークショップやフィールドワークの実施を検討しましたが、コロナ禍の状況から断念しました。当センターとしては、継続実施を企図しています。次年度は With コロナの状況下での体験型学習の在り方を模索しつつ、避難所運営やマニュアルづくり等のワークショップやフィールドワークを企画したいと考えています。

○　災害に対しての知識、意識が高まりました。ありがとうございました。

○　自分の周りの環境や防災について少し興味が湧きました。

○　災害が起きた際に自分たち学生でも力になれることがあることを知り、災害への意識を高めようと思いました。

○　本日は講座を開催いただきありがとうございました。実際に災害に遭われ、対応された花田先生のお話は大変参考になりました。今後の研修でも実際に体験された方のお話をお聞きできればと思います。安否確認システムや安否確認の方法などお聞きしたかったです。インターネットを利用出来ない場合、どのような方法で確認をとる準備をされていますでしょうか。よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

○　生活不活発病という病気を初めて聴き、避難生活でほとんど動けないことで身体に悪影響を及ぼしてしまうことを初めて知った。また、運動不足を伴う生活習慣病などがあるとさらに危険な状態になりやすいかもしれないため、避難生活を強いられたとき上手に避難生活を送る方法を自分でもう少し考える必要があるのではないかと思いました。

○　ニュースなどでは災害の映像などたびたび目にするのですが、実際に自分が経験していない分、災害に対して軽視してしまっていた部分があったと思います。今回の講義を通して災害時に自分がどう行動していくべきかを確認できました。災害はいつ、どこで起きるかわからないのでこれから危機感を持って行動していきたいと思います。

○　貴重な防災・災害対策について様々な視点から考えることができ、とても貴重な時間でした。

○　多岐わたって災害に関連することについてのご講演、ありがとうございました。大学での取り組み等、とても興味深いものでした。**定期的にこのような場を開催されていくのでしょうか？**さまざまな分野からのお話を伺えるといいなと思いました。

質問２：定期的にこのような場を開催されていくのでしょうか？
回答２：神奈川工科大学地域連携災害ケア研究センター

毎年、実施できるよう調整中です。

○　自身も東日本を経験していたため、災害時の対応は知っていると認識していましたが、今回の話を聞いて知らなかったことがたくさんあるなと感じました。改めて災害時の対応や地域の対策など知っておくべきだと考えました。

○　とても勉強になる話が多くて楽しめた。実際に災害を体験して避難所の運営を行った人の話を聞く機会はなかなかないと思うのでとても勉強になり、これからの人生に役立つと感じた。

○　防災災害ケア基礎講座を開催していただきありがとうございました。花田先生のお話を伺い、避難所ではルールを決めることより、配慮や臨機応変に対応していくことが必要であること、義務ではなくボランタリーの精神が大事であることが分かりました。現場ではそういうことが大事である一方で、災害に備える段階においては、できることをしていかれればと思います。小川先生から医療的ケアの電源について聞いていただき、ありがとうございました。医療的ケアにも通信にも電源が必要であり、その備えについて今後も取り上げていただければと思います。小川先生、関係の皆様、今後もこの取り組みを続けていただき、必要な情報を発信していただければと思います。長時間の開催、お疲れ様でした。

○　大学が災害において地域と共同で取り組む姿勢に、大変心強く思いました。地域住民の方に広く周知していただき、共助の視点で、また自由な発想で、取り組みを広げていただきたいと思います。大変興味深かったので、また次回も参加したいと思います。ありがとうございました。

○　神奈川工科大学大学の教員です。長年、防災科学技術研究所と共同で研究を実施してきました．当所も自治体と協力して活動を広めていきたいとの希望があるそうです（実際の活動もあります）．ピュアな技術的研究が主体でしたが、「防災」の観点から幅広い活動を行い始めているようです．
コンソーシアムも構築しているので、意見を求めては如何でしょうか。

○　今まで、災害時にはこういったことを行うなどの講習は受けてきましたが、熊本の災害で実際に活動を行った人のお話を聞くことは初めてだったので

より現実味のある内容を詳しく知ることができて有意義でした。

○　災害時の情報収集を行う上での注意点や、災害が起きる前に収集できる情報についてまとめる必要があると思いました。

○　花田先生の話から現場を経験されたからこその貴重なお話が聞けてとてもためになった。後半は実際に災害が起こる前からの知識として役に立つものが多く、とてもためになった。また機会があるならこのような講座を受けてみたいと思った。

○　熊本地震等実際に行動したお話が聞けて大変参考になりました。実際の場面でも管理はしない・配慮するということは頭に入れて行動できたらと思いました。これから自然災害等いろいろな場面で避難や災害に見舞われることが多いかと思います。自分を守ることが皆を守ることにつながると思いますので自分にできることをやっていきたいと思いました。ありがとうございました。

○　今回のセミナーでは厚木市における防災と災害に対する取り組みについて知ることができた。また、実際に大震災に遭われた花田教授の話も非常に参考になったと思いました。少し残念だったのは、皆さん限られた時間のため説明を省かれた箇所があったので、参加者には授業で使用した資料を事前に配布しておいていただきたかったです。

解説：神奈川工科大学災害ケア研究センター
事前に参加登録者にはPDF資料をダウンロードできるようURLをお知らせしましたが、直前のお申込み等により一部、受信できなかった方がおられたようです。現在、神奈川工科大学地域連携災害ケア研究センターのホームページ上での公開を準備中です。
併せて、2021年８月４日実施のシンポジウム「コロナ禍における災害対策～要配慮者に対するケアを中心に～」の報告書も公開しますので、お待ちください。
地域連携災害ケア研究センターホームページアドレス
https://kait-ccd.jp/

○　神奈川工科大学の教員です。今回の基礎講座は地域の防災のためにも、本学

の存在意義のＰＲのためにも、大変良かったと思います。午後から視聴したので、高嶋先生・塩川先生の講座を主に視聴しましたが、お二人とも地域の方々向けにとてもわかりやすい内容でした。高嶋先生の画像を視て一緒に運動できてよかったです。企画・運営してくださった皆様ありがとうございました。今後は、医療的なこともあるとよいかと思いました。

○ 災害時の対応に役に立った。

○ 全ての講演 PowerPoint を配布くださいまして、本当に ありがとうございます。

○ 防災の知識や考え方を学べました。

○ 仕事と並列のため、あまり聞けませんでした。それでもここの話題は興味深いものでした。

○ 災害対応の大切さを学びました。

○ とても貴重な話が聞けて良かったです。

○ 色々な方の話を聞けてとてもタメになった。また参加したいと思いました。

○ 熊本地震で大学が開設した避難所運営の取り組みが参考になりました。障がい者や要配慮者を排除、隔離しないという当たり前の原則、配慮の原則のもと柔軟に避難所を運営しているのは、素晴らしかったです。東日本大震災でも避難所に障がい者の方がいなかった（実際には居場所がなく過ごせなかった）と聞いています。障がいの相談支援事業所としても、どう災害時の避難行動要支援者名簿や個別支援計画を活用していくか、地域の課題だと感じています。この取り組みを参考に地域で、共生社会を根づかせ行く取り組みを私達の地域でも考えて行きたいと思います。

○ 熊本地震において避難所として利用された大学の学生や教員が自分たちで積極的に考えて行動したことで、老若男女問わず適切に対応でき最後の１人を送り出すまで対応していたことに感銘を受けました。私も自分の大学が避難所として利用された場合には、積極的にボランティア活動をしたい

と思います。

○　災害が発生したときの対応などはニュース等で大まかな内容を聞く程度だったが、実際に現場で活躍している方に、現場でどのようなことが起きているのか等の貴重なお話を聞けて良かった。また、学生が災害現場で活躍していることを知り、自分も何か役に立つことがあれば積極的に参加したいと思った。

○　今回のセミナーでは大学の講義では聞けない現場での生の声を聞けたためとても良かったです。もし、災害が発生した際は今回学んだことを生かしたいと考えています。

○　今回のセミナーを通して、今一度、防災に対する日ごろからの意識と災害が起きてしまった後の自分たちがとるべき行動について考えさせられました。

○　災害時の備えや、起きてからの行動とか、避難場所など家族でしっかり確認しておくこと、防災の意識を日頃から持っておくべきだと感じました。

○　防災の研修ですと「地域との協力が大切」という結論にとどまりがちですが、経験談、生活習慣、技術と様々な観点から学べたことは非常に有意義でした。また、あらためて人工呼吸器を使用するような、電源を必要とする方の対策が重要かと思います。神奈川工科大さんのように自家発もあり、看護学部もある避難所はなかなかないので、その部分の活用を検討をされるとありがたいなと感じました。

○　参加させていただきありがとうございました。熊本学園大学花田先生の講演はとても参考になりました。地域の避難所マニュアルも障がい者、高齢者について言葉しては出てきますが、実際に被災したらとても対応できる内容ではなく、避難所運営訓練、防災訓練では意識しシミュレーションする必要を改めて感じました。熊本学園大学では、避難所でお酒も可能とされたと報告されましたが、3.11 による東北での避難所ではお酒から女性へのハラスメント等が発生したりしています。そういった点ではどのようにお考えでしょうか。**高嶋先生の講演でご紹介いただいたストレッチは、動画で公開はされていらっしゃいますか。**
今後、このような講座が開催されるようでしたら、是非参加させて頂きたい

と思いますので、ご案内頂ければと思います。本日はありがとうございました。

質問３：高嶋先生の講演でご紹介いただいたストレッチは、動画で公開はされていらっしゃいますか。
回答３：神奈川工科大学地域連携災害ケア研究センター
現在のところ、基礎講座で高嶋先生が紹介されたストレッチや筋トレは公開されていませんが、「（仮称）避難所でもできるストレッチ」を神奈川工科大学地域連携災害ケア研究センターホームページに公開準備中です。
地域連携災害ケア研究センターホームページアドレス
https://kait-ccd.jp/

○　大規模災害が起きた時には、携帯電話の基地局がダウンして、交通網が混乱することが地元の大震災から経験したので、ボランティア活動を行うにも実際は訓練通りにいかないと考えられるので、本学で災害時に初期活動として、連絡手段を用いないで、倉庫に学生が集合し、避難所を設営できるように今後話し合いを行って、備えが完璧になることを願っています。

○　災害にあった際の適切な行動を学ぶことができました。ありがとうございました。

○　厚木市や大学での災害対策を知ることが出来た。

○　熊本からの大学の活動が大変おもしろかったです。過去の被災地で様々なお立場で活動なさった方々の報告をもっと伺いたいです。

○　今回の講演会で、学ぶことがたくさんありました。このような機会をもっと増やしていただきたいです。また、より多くの方に参加していただければ、災害時にスムーズな対応をとることができるのではないかと感じました。

○　自然災害が多い日本で毎年のように各地で災害が起こっています。ですが、幸いなことに神奈川県は被害が少なく、もしもの時の対応がいまいち想像できていませんでした。今回の講座で被災地の声や、神奈川工科大学がどんな対応をしているのか知ることができました。貴重なお話が聞けて嬉しく

思います。そこで一つ質問なのですが、熊本学園大学では災害発生時に多くの障がいをお持ちの方を受け入れたとおしゃっていました。もし同じような状況になった時、神奈川工科大学ではどのような対応をされますか？受け入れてくださいますか？

質問４：災害時における神奈川工科大学の障がい者への対応、受け入れについて

回答４：神奈川工科大学管財課

神奈川工科大学では、多くの建物がバリアフリーになっており、車いすなどでの避難者も受け入れが可能です。各建物にバリアフリートイレがありますが、ご利用人数が多い場合には、避難場所（建物）を分散させていただく場合もございます。

○　神奈川県立かながわ県民活動サポートセンターの職員です。本日は受講させていただきありがとうございます。発災時、県域の災害ボランティアセンターを設置運営する立場ですので、厚木市をはじめ市町村の避難所運営で生じる困りごとを広域的にバックアップします。本日を機に厚木の皆様と平時から連携していけたらと願っています。改めてご挨拶させていただきたいのですが、どなた様にご連絡させていただいたらよろしいでしょうか。ご教示くださいますようお願いいたします。

質問５：他機関との連携窓口について

回答５：神奈川工科大学地域連携・貢献センター

地域連携に係る相談は神奈川工科大学地域連携・貢献センターが担っています。連絡先は下記の通り

地域連携・貢献センター

〒243-0292　神奈川県厚木市下荻野 1030 番地
TEL：046－291-3212
FAX：046－291-3262
E-mail：chiiki-koken@ccm1.kanagawa-it.ac.jp
URL：https://cp.kanagawa-it.ac.jp/ccc/

なお、当該のお問い合わせは地域貢献・連携センターが対応させていただきました。

○ ハザードマップやストレッチなど自分の身に、いざ何か生じた場合に、ためになる内容でした。また、熊本の震災のように大規模な災害に見舞われる時にはやはり自分たちのような学生が最も動くことが可能であるため、自ら率先して行動しようと感じました。

○ 今日はありがとうございました。午後のみの参加でしたが、４つの講座が非常に解りやすくまとめられており、どの講師も解りやすく丁寧にお話しいただきました。あっという間の時間でした。次回も期待しております。高嶋先生の実演があったのも良かったです。

○ 自分の住んでいる地域の災害の起きた時の情報の見方や避難時などの運動の方法などを知ることができてとても勉強になりました。きちんと覚えて家族と話し合っていきたいです。

○ ネットワークの渋滞を防ぐ方法を考えないといけないと思いました。

○ 自分でも防災グッズや何か起きた際にどうすればいいかなど準備はしていたが、今回の公演を聞いて足りないものやもっと調べておいた方がいいことなどわかったので、これから活かしていきたい。

○ 神奈川工科大学の近くに事務所があります。防災・災害に取り組まれていて安心します。

○ 今回のセミナーを通じて、自分の地域のハザードマップを確認しようと思いました。また、災害のときは混乱して情報を鵜呑みにしてしまうと思いますが、そこで慎重になってしっかり信用できる発信元なのか見分けようと、あらためて実感することができました。

○ 様々な場所での災害の対策、また大学で準備されている災害対策について詳しく聞けて良かったです。

○ 本日はありがとうございました。大変貴重なお話を聞くことができました。他人事ではなく自分事として日頃から防災・災害を意識していくことを心掛けていきたいと思います。
本日の資料をいただくことができれば今後、振返りの際に活用できるため、HP 等に掲載も検討いただけると幸いです。

→　（再掲）解説：神奈川工科大学災害ケア研究センター
事前に参加登録者にはPDF資料をダウンロードできるようURLをお知らせしました送信しましたが、直前のお申込み等により一部、受信できなかった方がおられたようです。現在、神奈川工科大学地域連携災害ケア研究センターのホームページ上での公開を準備中です。併せて、2021年８月４日実施のシンポジウム「コロナ禍における災害対策～要配慮者に対するケアを中心に～」の報告書も公開しますので、お待ちください。
地域連携災害ケア研究センターホームページアドレス
https://kait-ccd.jp/

○　本日はありがとうございました。貴重なお話を伺うことができ大変勉強になりました。当方、大学職員で防災担当をしております。今回特に前半で熊本学園大学様での具体的な事例や神奈川工科大学様での取組など興味深く拝聴させて頂きました。また次回開催がございましたら是非参加させて頂ければと思います。

○　花田先生のお話、とてもよかったです。実際に運営されたからこそのお話と思います。「何が起きても柔軟に対応する」「拒否・管理しない、配慮する」「非日常だからこそ、当たり前のことをする」肝に銘じたいと思います。ありがとうございました。

○　今回の機会では、多くの関係者様たちのご意見が聞けてとても参考になりました。災害時の考えや行動、予防策について学べました。ありがとうございました。

○　分かりやすかったです。ありがとうございました。

○　今回のセミナーを受けて、改めて防災について深く考えることができました。また、熊本地震の際の大学での取り組みなどとても貴重なお話を聞けて良かったです。自然災害はいつどこで起こるかわからないので、今回のセミナーの内容を踏まえたうえで、防災に対する意識を高めていきたいと思います。

○　本日はありがとうございました。災害対策整備のために色々な情報をお聞き出来て大変勉強になりました。ただ、事前にお送りいただけるはずだった

資料が届かなかったことが残念です。**後日ご送付いただけるようであればお送りいただけますでしょうか。どうぞよろしくお願いいたします。**

→解説：資料につきましては、神奈川工科大学地域連携災害ケア研究センターホームページに掲載準備中です。
地域連携災害ケア研究センターホームページアドレス
https://kait-ccd.jp/

○ 日常生活においても利用しているスマートフォン(ネットワーク，SNS)の情報を信用しすぎないことも大切ではあるが、正しい情報を報道しないテレビの情報にも惑わされないようにすることが大事になってくると思います。自らが、信用できるサイトにアクセスし、信用できるデータを集め根拠をもって発信することが重要であると考えました。例えば、厚生労働省や外務省，世界保健機関，各市町村のHPなど間違った情報が発信されづらいサイトへのアクセスが重要であると思います。

○ 厚木市のハザードマップについて知りたかったので参加しました。今後更に厚木市の洪水や川の氾濫について、また、厚木市街地の最新の内水の状況なども知りたい。午後参加させていただきましたが、生活不活性化病を防ぐ運動や、災害時のインターネット活用については、今後どんどん進化していき、災害時に養成された方がリーダーとして活躍するようになってほしい！と思いました。午後途切れ途切れで参加させていただきましたが、地域の情報・最新の情報が学べる講座で、興味をもって参加させていただきました。ありがとうございました。

○ 熊本地震そして大学内でのボランティア活動を実際に経験された花田先生のお話を聞けて良かった。災害発生直後は、マニュアルが役に立たないこと、誰でも受け入れる姿勢を持つこと、そして大学ならではだが学生（若者）の力を信じ頼ることが功を奏したなどが印象に残った。花田先生、ありがとうございました。

○ 「避難してくるどんな人も排除・隔離しない。」「ルール・規則は作らない。」「管理はしない、配慮する。」いずれも緊急時には必要なことであり大事なことだが、実際に行動するのは難しいことだと思った。組織のトップの理解・行動が求められる。

○　高嶋先生のご講演は、具体的な運動の方法がわかってよかったです。ありがとうございます。

○　一日講座、お疲れさまでした。熊本学園大学の花田先生の講演がとても印象的でした。とくに「普段地域の中で生活している人が避難してくるのだから、誰でも受け入れるのが当たり前」「配慮はするけど管理はしない」「規則は作らない」というのは、目から鱗でした。また、火気使用について「規定では禁止だけど災害時だから OK にした」というお話。平常時に作ったルールやマニュアルを守ることよりも、その日その時その場で判断するこが重要なのだと感じました。貴重なお話をありがとうございました。

○　災害が発生した時の参考になりました。ありがとうございました。

発行

地域連携災害ケア研究センター管理室
（地域連携・貢献センター内）
TEL：046-921-3153
TEL：046-291-3212
FAX：046-291-3262

e-mail： chiiki-koken@cco.kanagawa-it.ac.jp

〒243―0292　神奈川県厚木市下荻野 1030

発行日
2021 年 10 月 1 日

地域連携
災害ケア研究センター